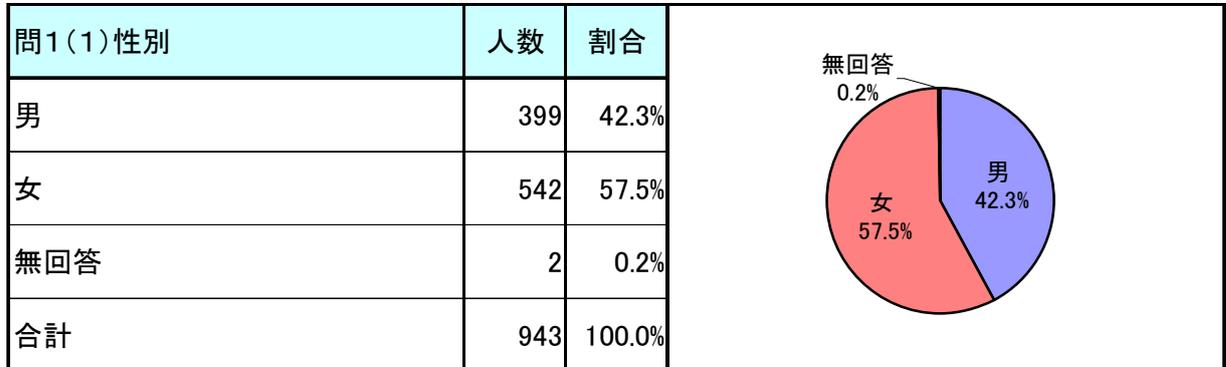


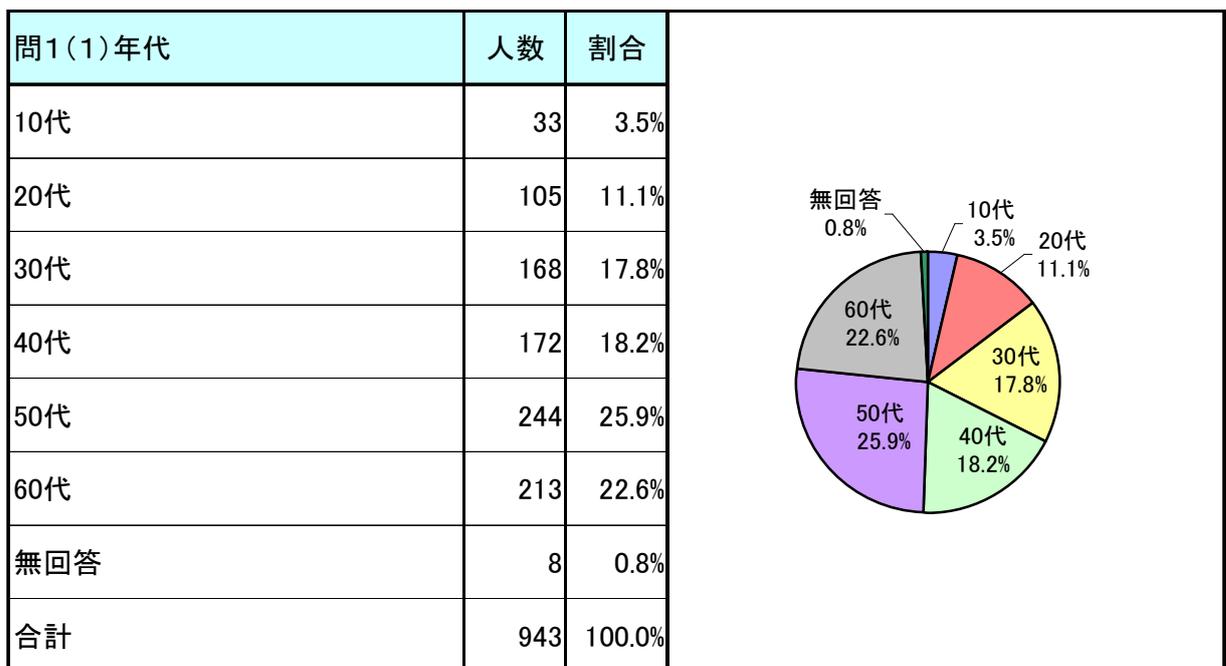
第 4 章 一般

1 性別、年齢、就労状況などについて

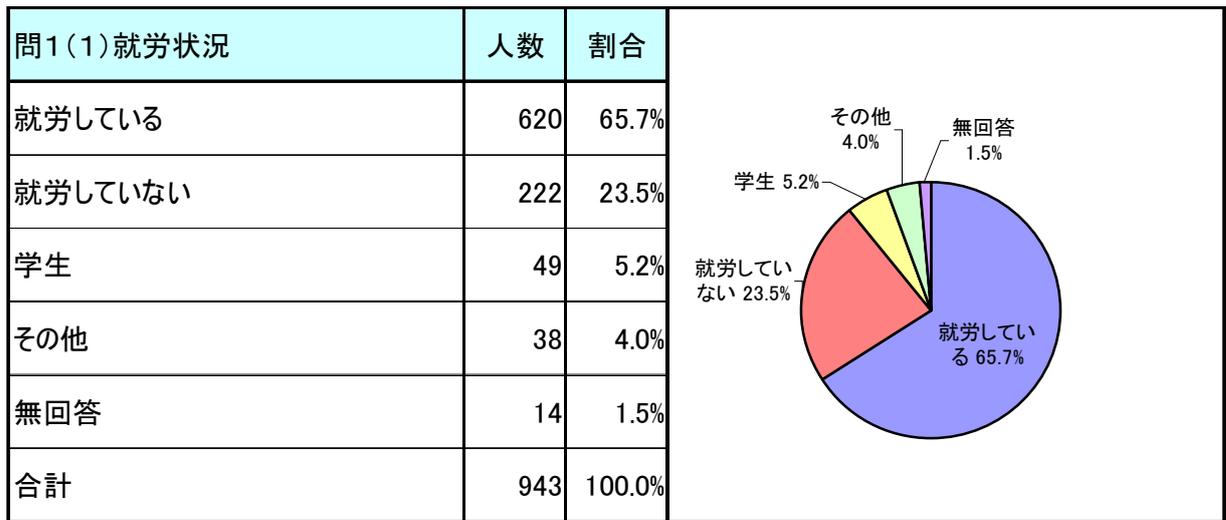
問1 あなたの性別などについてお聞きします。



性別については、「男」が42.3%、「女」が57.5%となっている。



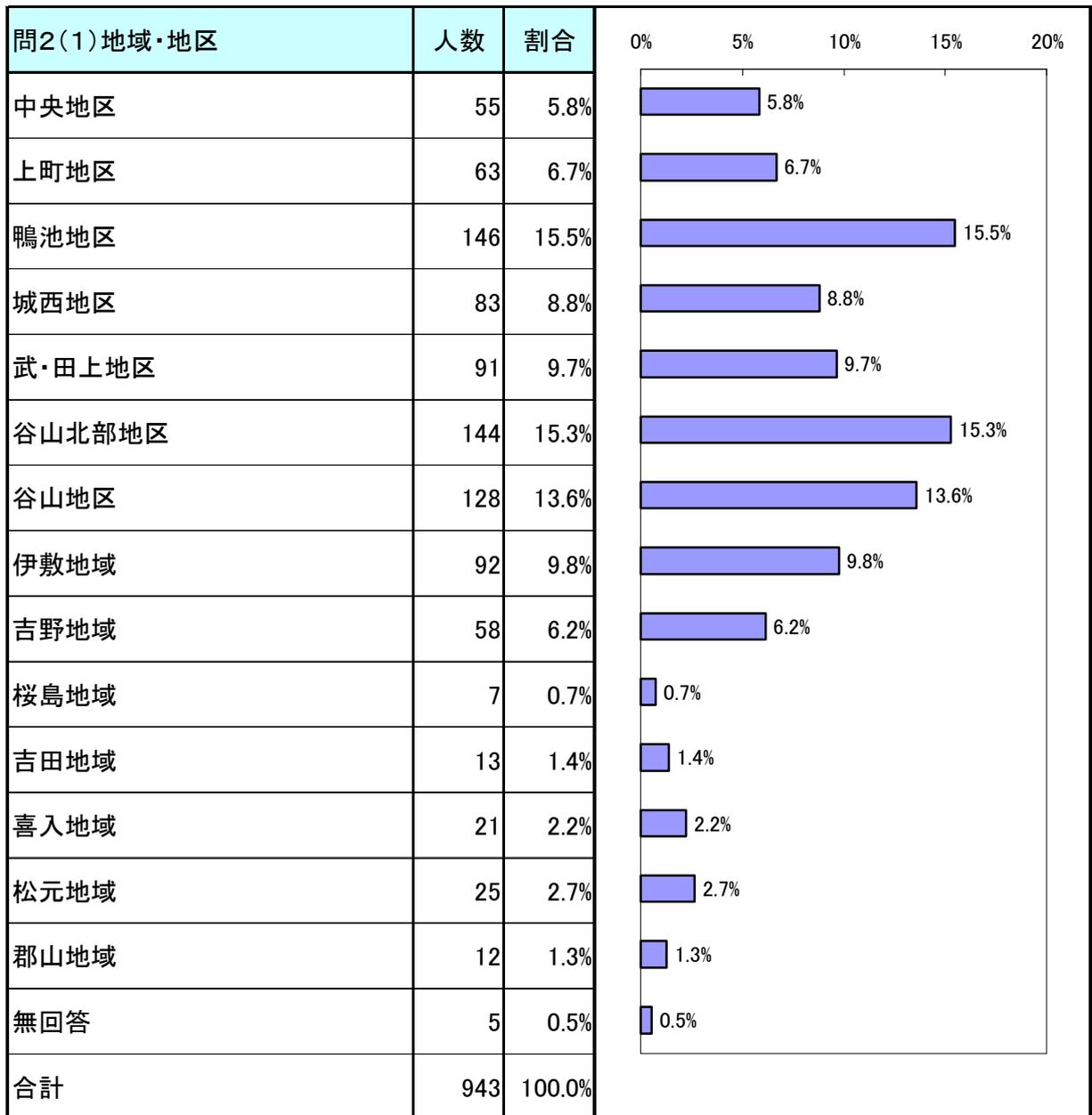
年代については、「50代」が25.9%と最も多く、次いで「60代」が22.6%、「40代」が18.2%となっている。



就労については、「就労している」が65.7%と最も多く、次いで、「就労していない」が23.5%、「学生」が5.2%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「主婦」等が挙げられた。

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

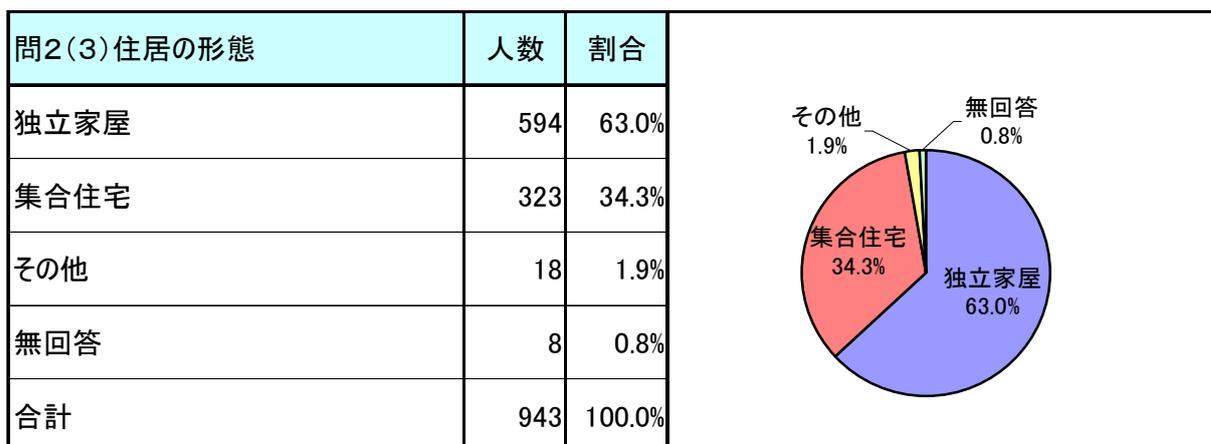


(注) 第五次総合計画に基づく地域・地区

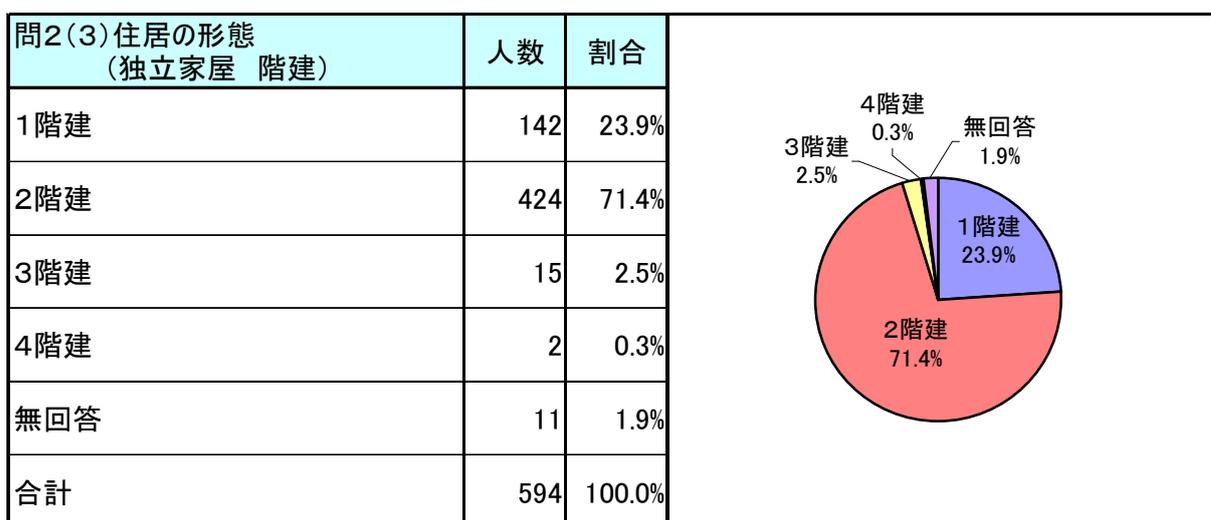
現住所地については、「鴨池地区」が 15.5%と最も多く、次いで「谷山北部地区」が 15.3%、「谷山地区」が 13.6%となっている。

問2(2) 小学校区

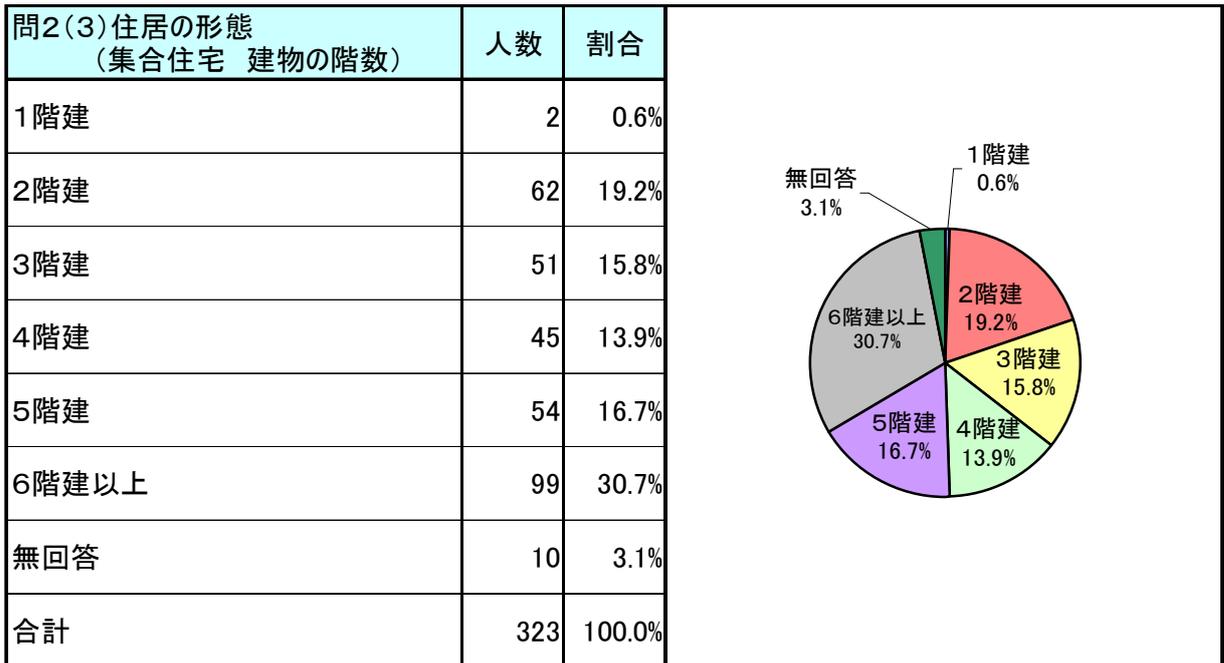
区 分	人数	割合	区 分	人数	割合
吉田小学校	8	0.8%	花野小学校	16	1.7%
本名小学校	2	0.2%	西伊敷小学校	17	1.8%
宮小学校	2	0.2%	伊敷台小学校	17	1.8%
本城小学校	0	0.0%	玉江小学校	17	1.8%
牟礼岡小学校	1	0.1%	小山田小学校	5	0.5%
南方小学校	3	0.3%	犬迫小学校	3	0.3%
花尾小学校	2	0.2%	皆与志小学校	2	0.2%
郡山小学校	5	0.5%	東桜島小学校	1	0.1%
川上小学校	15	1.6%	改新小学校	0	0.0%
吉野小学校	13	1.4%	高免小学校	0	0.0%
吉野東小学校	12	1.3%	黒神小学校	0	0.0%
大明丘小学校	10	1.1%	桜洲小学校	0	0.0%
坂元小学校	15	1.6%	桜峰小学校	4	0.4%
坂元台小学校	7	0.7%	松元小学校	11	1.2%
清水小学校	10	1.1%	東昌小学校	1	0.1%
大龍小学校	16	1.7%	春山小学校	5	0.5%
名山小学校	8	0.8%	石谷小学校	8	0.8%
山下小学校	14	1.5%	谷山小学校	26	2.8%
松原小学校	8	0.8%	西谷山小学校	19	2.0%
城南小学校	8	0.8%	東谷山小学校	22	2.3%
草牟田小学校	15	1.6%	清和小学校	26	2.8%
原良小学校	24	2.5%	和田小学校	19	2.0%
明和小学校	23	2.4%	錦江台小学校	16	1.7%
武岡小学校	9	1.0%	福平小学校	29	3.1%
武岡台小学校	7	0.7%	平川小学校	1	0.1%
西田小学校	15	1.6%	錫山小学校	1	0.1%
武小学校	25	2.7%	中山小学校	15	1.6%
田上小学校	12	1.3%	桜丘西小学校	7	0.7%
西陵小学校	14	1.5%	桜丘東小学校	5	0.5%
広木小学校	17	1.8%	星峯西小学校	12	1.3%
中洲小学校	11	1.2%	星峯東小学校	18	1.9%
荒田小学校	14	1.5%	宮川小学校	19	2.0%
八幡小学校	18	1.9%	皇徳寺小学校	6	0.6%
中郡小学校	7	0.7%	瀬々串小学校	3	0.3%
紫原小学校	14	1.5%	中名小学校	3	0.3%
西紫原小学校	28	3.0%	喜入小学校	10	1.1%
鴨池小学校	18	1.9%	前之浜小学校	1	0.1%
南小学校	8	0.8%	生見小学校	2	0.2%
宇宿小学校	14	1.5%	一倉小学校	0	0.0%
向陽小学校	11	1.2%	無回答	106	11.2%
伊敷小学校	7	0.7%	合 計	943	100.0%



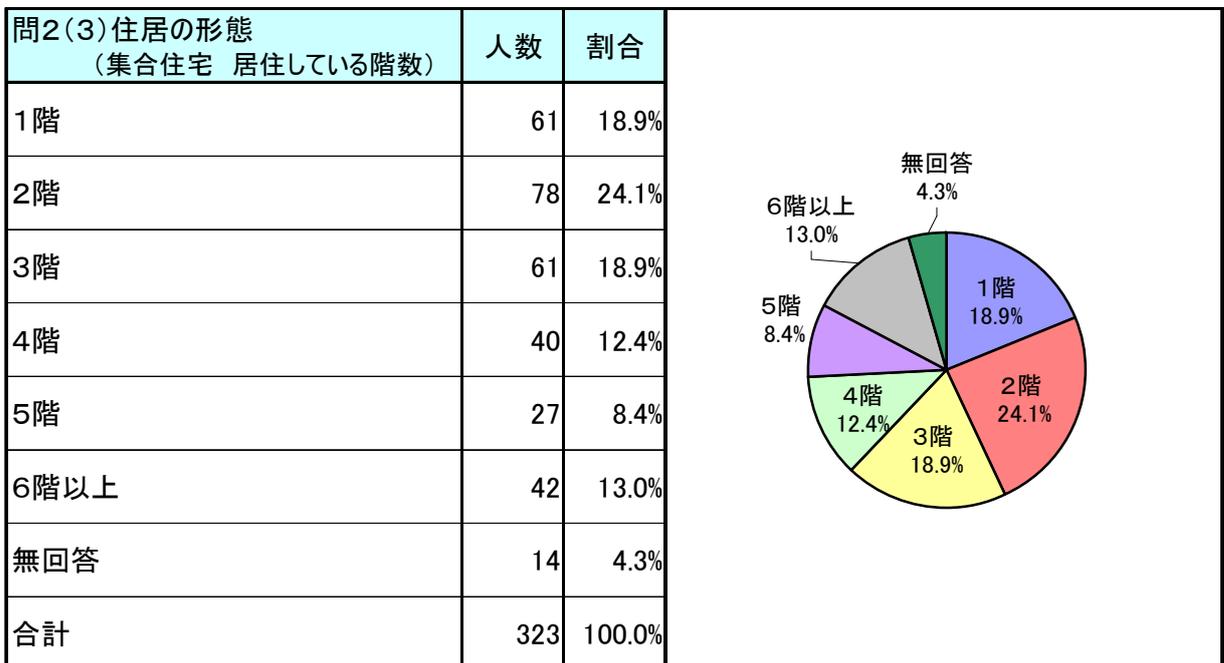
住居の形態については、「独立家屋」が63.0%、「集合住宅」が34.3%となっている。



独立家屋の住居の形態については、「2階建」が71.4%と最も多く、次いで「1階建」が23.9%、「3階建」が2.5%となっている。



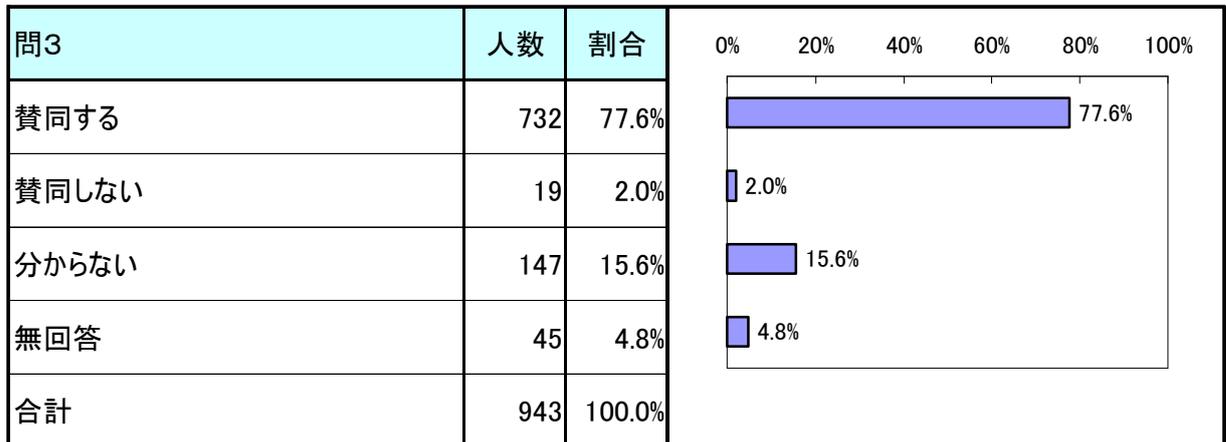
集合住宅の建物の階数については、「6階建以上」が30.7%と最も多く、次いで「2階建」が19.2%、「5階建」が16.7%となっている。



集合住宅の居住している階数については、「2階」が24.1%と最も多く、次いで「1階」と「3階」が18.9%となっている。

2 セーフコミュニティについて

問3 セーフコミュニティは、「事故やけがなどは偶然の結果ではなく、未然に防ぐことができる」という理念に基づいた安全向上の取組です。あなたは、この考えについてどう思いますか。(ひとつに○)



セーフコミュニティの考えについては、「賛同する」が77.6%となっている。

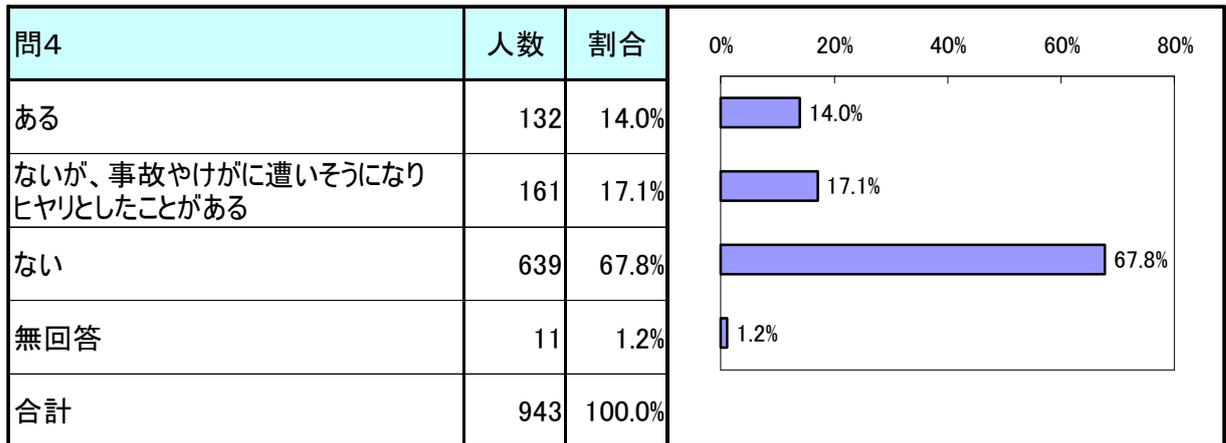
【属性別特徴】

性別・年齢別ともに、大きな違いはみられない。

問3	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
賛同する	732	77.6%	312	78.2%	418	77.1%	238	77.8%	492	78.2%
賛同しない	19	2.0%	10	2.5%	9	1.7%	10	3.3%	9	1.4%
分からない	147	15.6%	56	14.0%	91	16.8%	51	16.7%	91	14.5%
無回答	45	4.8%	21	5.3%	24	4.4%	7	2.3%	37	5.9%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

3 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。この場合の事故やけがとは、交通事故、転倒、転落、おぼれた、やけどなどをいいます。（捻挫、打撲などで、医療機関にかからなかったものも対象とします。）

問4 あなたは、この1年間に事故やけがの経験がありますか。（ひとつに○）



1年間の事故やけがの経験については、「ある」が14.0%、「ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある」が17.1%、「ない」が67.8%となっている。

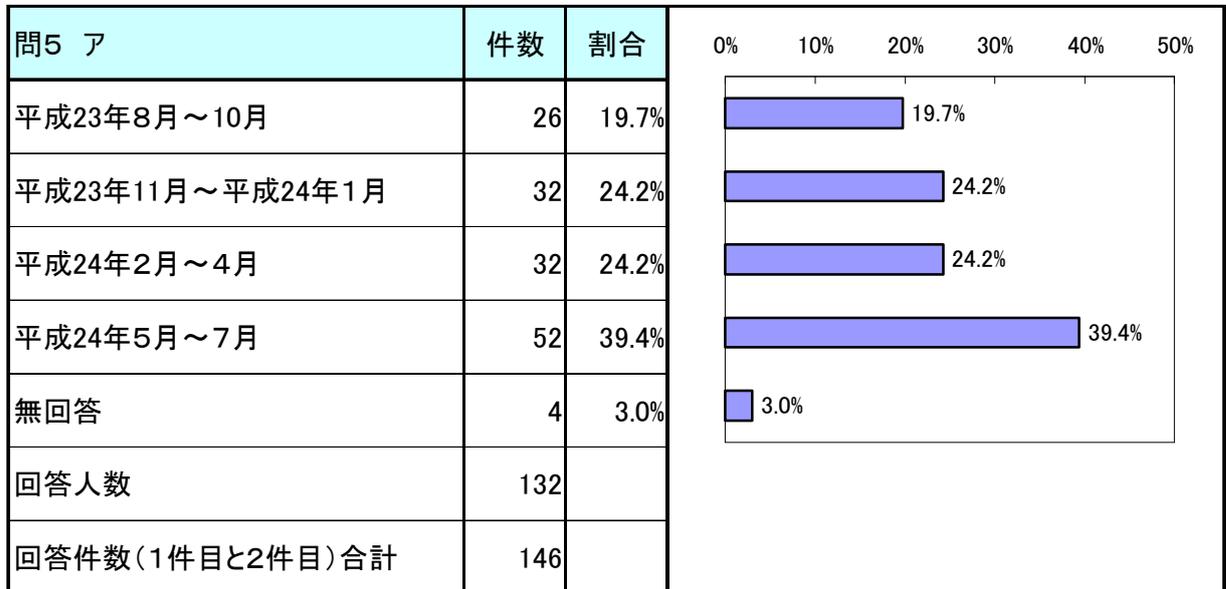
【属性別特徴】

性別・年齢別ともに、大きな違いはみられない。

問4	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ある	132	14.0%	49	12.3%	82	15.1%	46	15.0%	86	13.7%
ないが、事故やけがに遭いそうになりヒヤリとしたことがある	161	17.1%	76	19.0%	85	15.7%	62	20.3%	98	15.6%
ない	639	67.8%	267	66.9%	371	68.5%	195	63.7%	437	69.5%
無回答	11	1.2%	7	1.8%	4	0.7%	3	1.0%	8	1.3%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

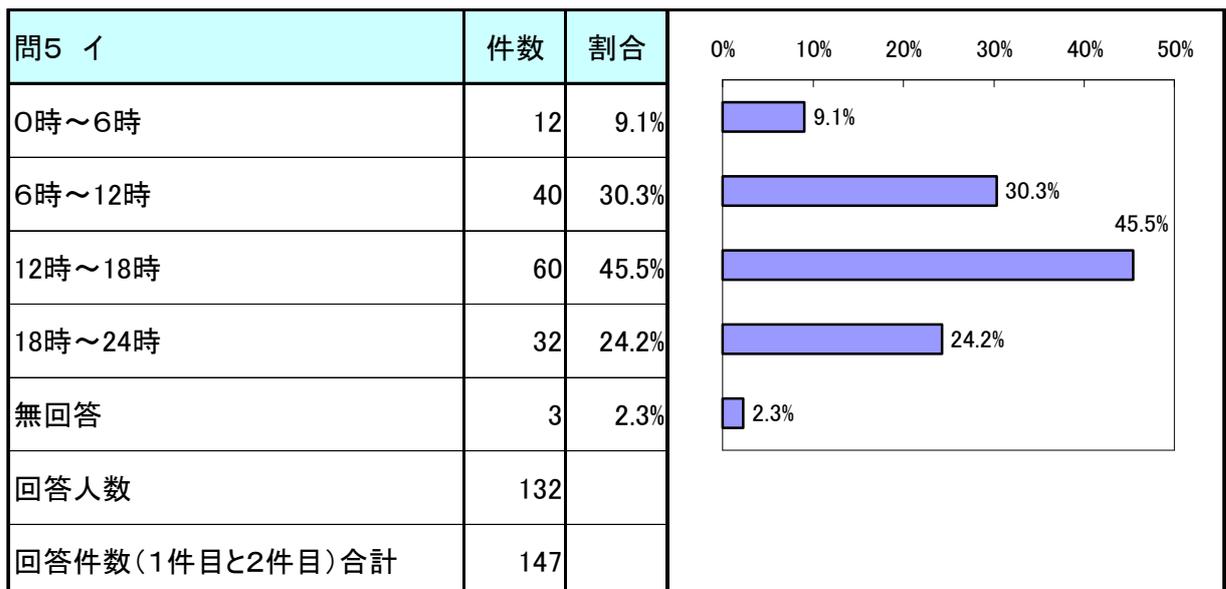
問5 あなたのこの1年間（平成23年8月～平成24年7月）にあった事故やけがについて、ア～サをそれぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

問5 ア 事故やけがをした時期



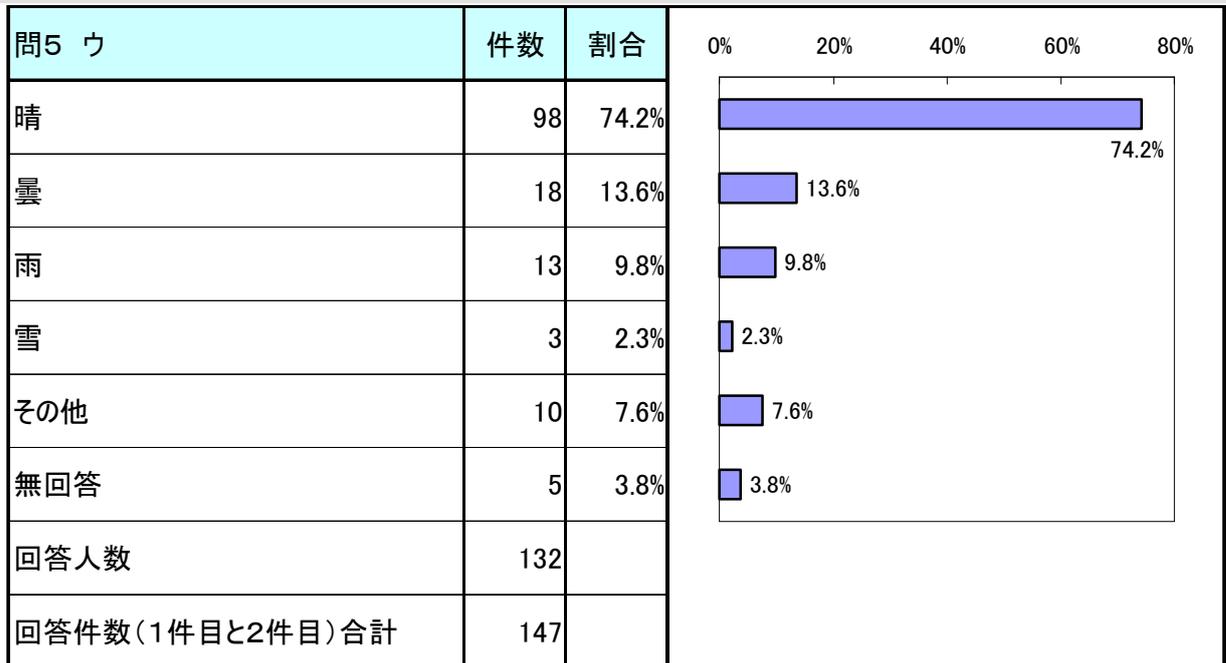
事故やけがをした時期については、「平成24年5月～7月」が39.4%と最も多く、次いで「平成23年11月～平成24年1月」と「平成24年2月～4月」が24.2%、「平成23年8月～10月」が19.7%となっている。

問5 イ 事故やけがをした時間



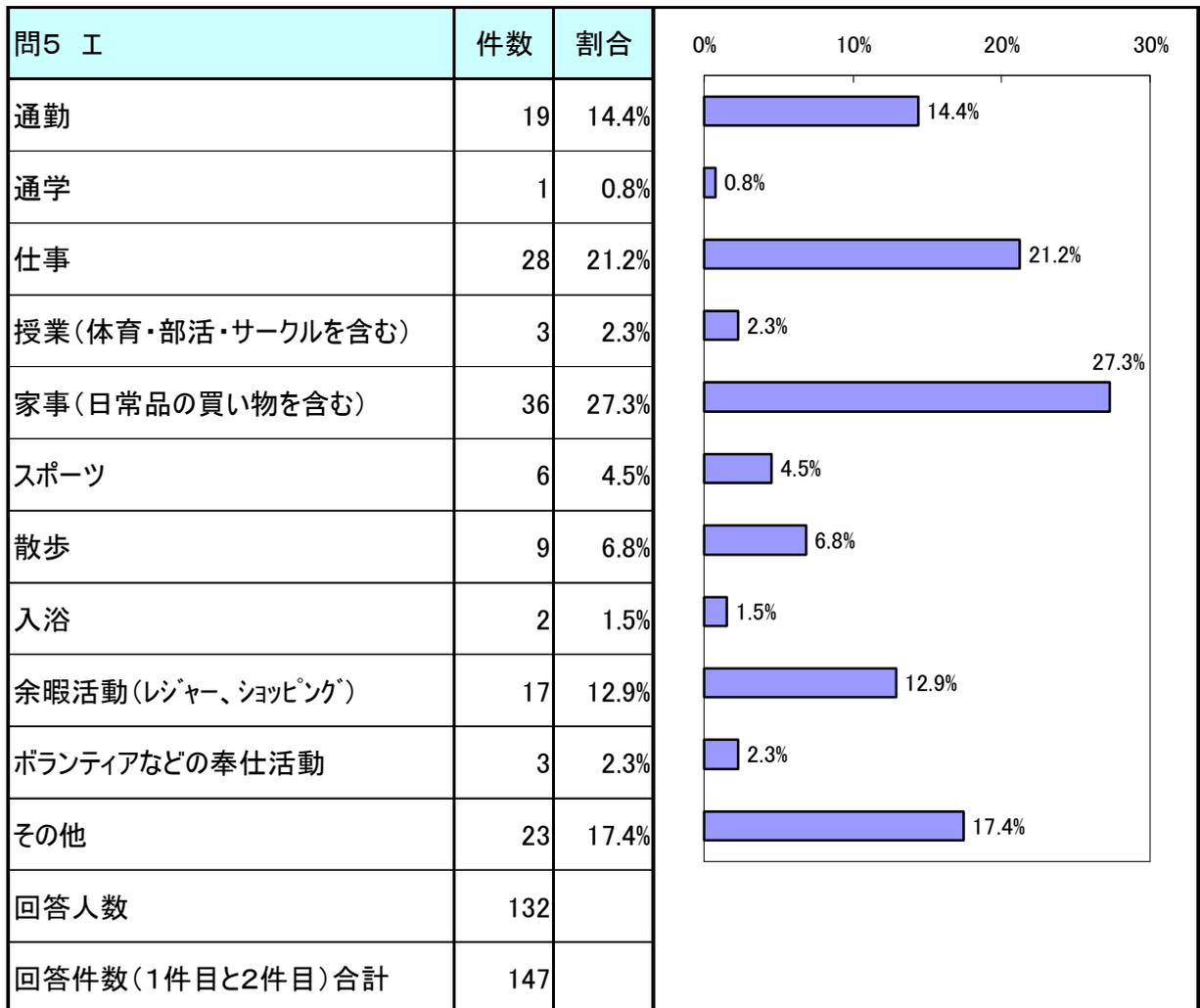
事故やけがをした時間については、「12時～18時」が45.5%と最も多く、次いで「6時～12時」が30.3%、「18時～24時」が24.2%となっている。

問5 ウ 事故やけがをしたときの天気



事故やけがをした天気については、「晴」が74.2%と最も多く、次いで「曇」が13.6%、「雨」が9.8%となっている。

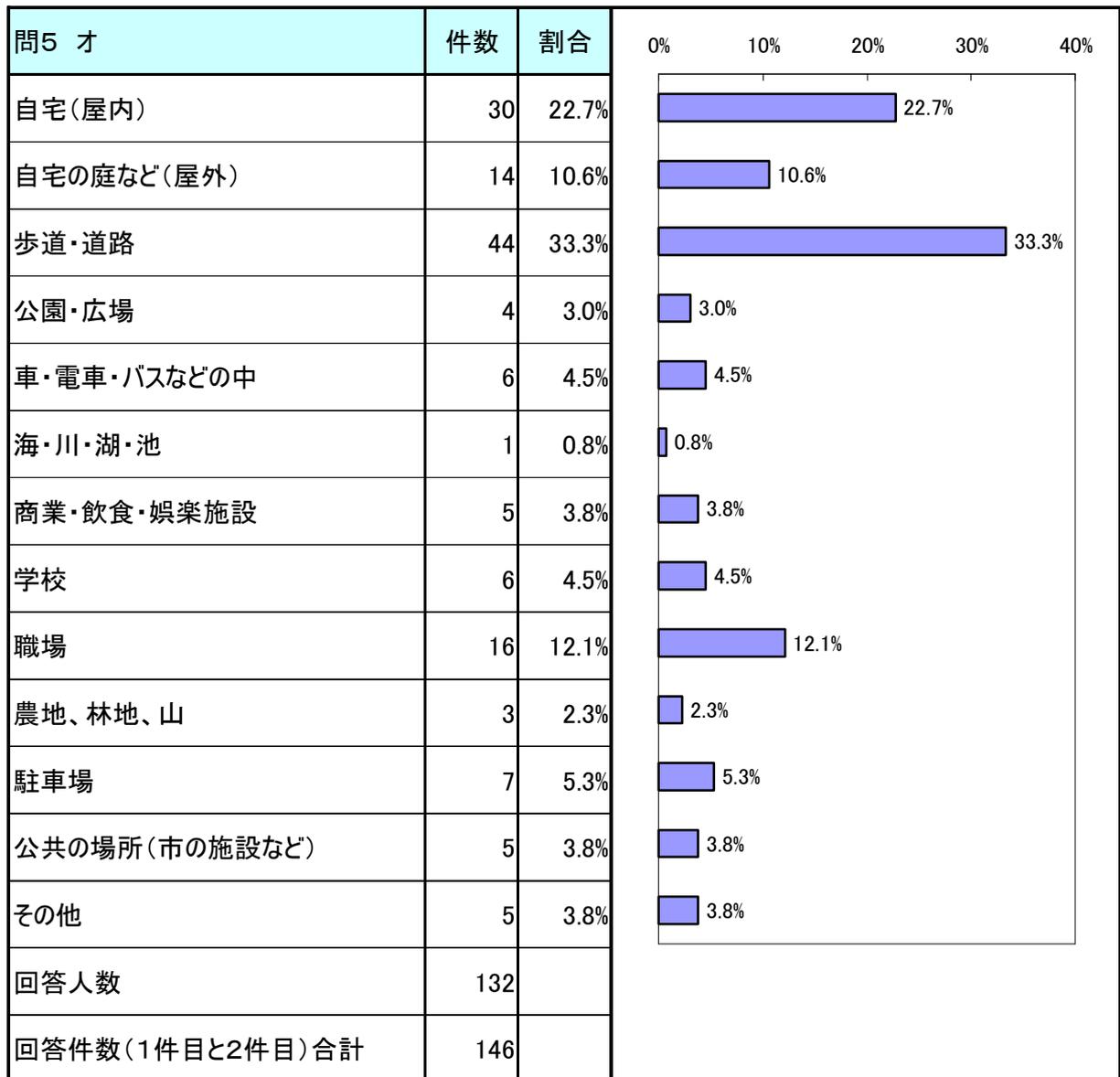
問5 エ 事故やけがをしたときの状況



事故やけがをしたときの状況については、「家事(日常品の買い物を含む)」が27.3%と最も多く、「仕事」が21.2%、「通勤」が14.4%となっている。

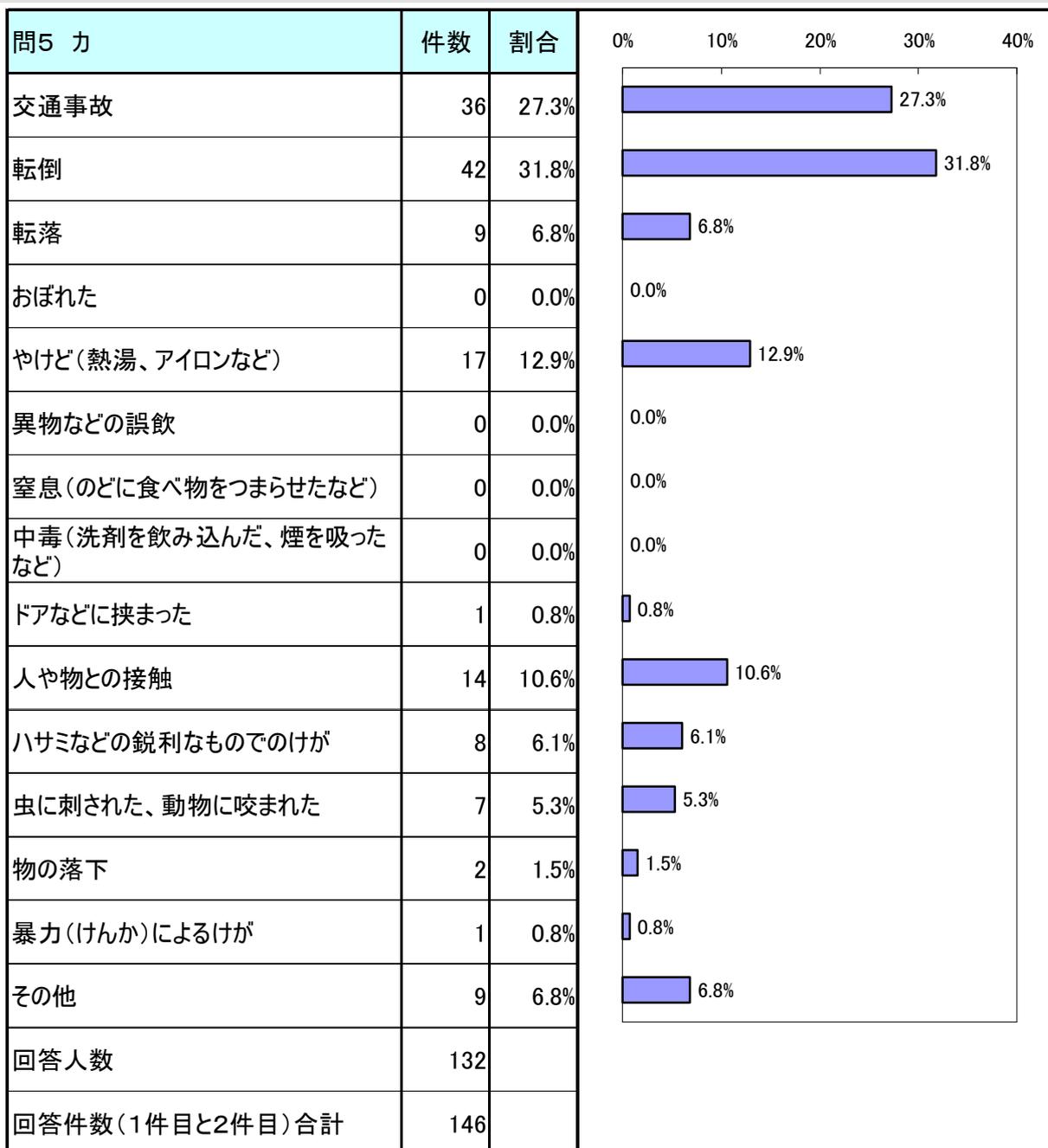
「その他」の具体的な内容としては、「就職活動中」、「習い事に行く途中」等が挙げられた。

問5 オ 事故やけがをした場所



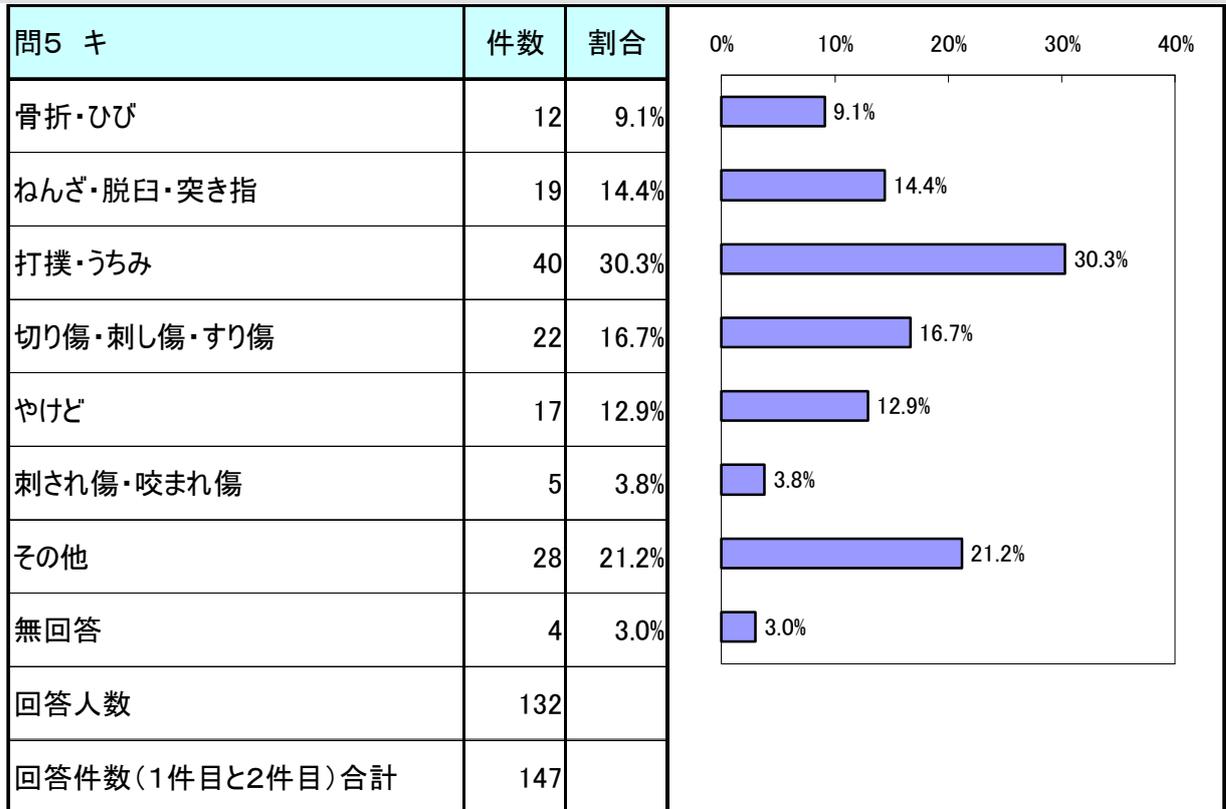
事故やけがをした場所については、「歩道・道路」が33.3%と最も多く、次いで「自宅(屋内)」が22.7%、「職場」が12.1%となっている。

問5 カ 事故やけがの種類



事故やけがの種類については、「転倒」が 31.8%と最も多く、次いで「交通事故」が 27.3%、「やけど(熱湯、アイロンなど)」が 12.9%となっている。

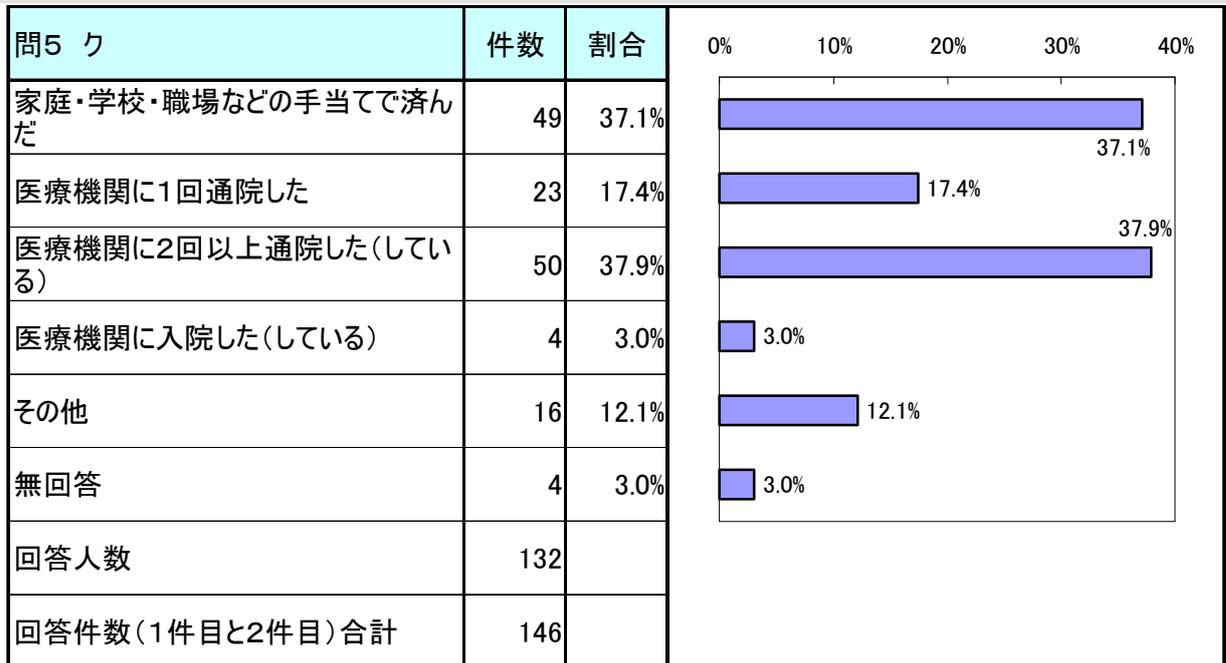
問5 キ けがの状況



けがの状況については、「打撲・うちみ」が30.3%と最も多く、「切り傷・刺し傷・すり傷」が16.7%、「ねんざ・脱臼・突き指」が14.4%となっている。

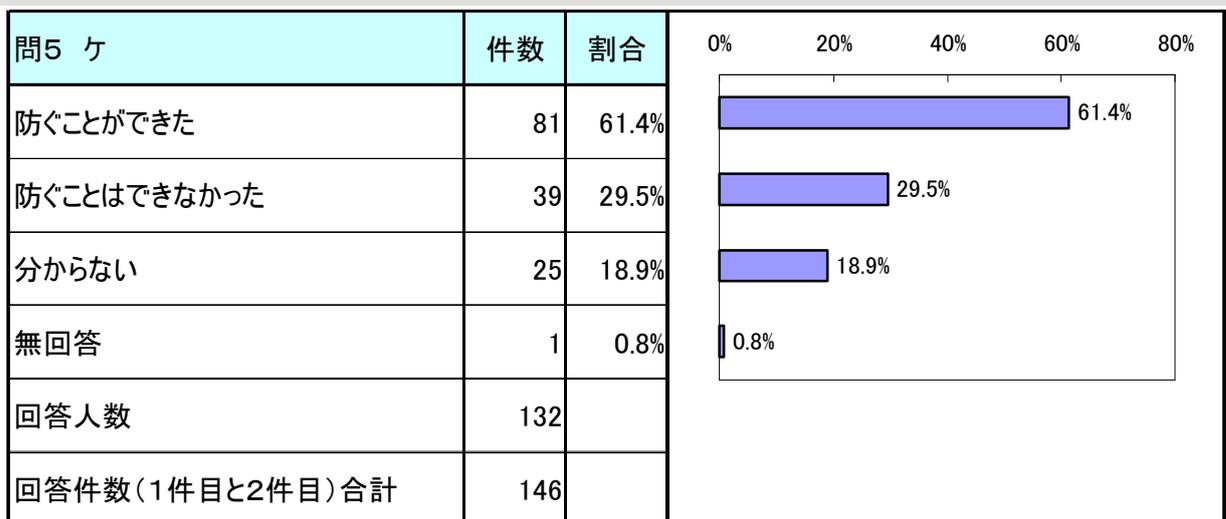
「その他」の具体的な内容としては、「肉離れ」等が挙げられた。

問5 ク 医療機関の受診



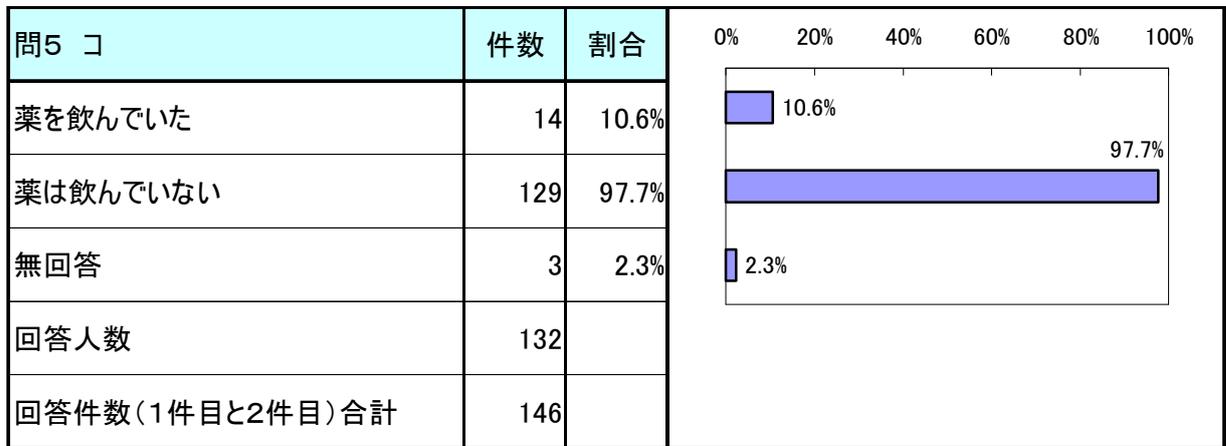
医療機関の受診については、「医療機関に2回以上通院した(している)」が37.9%と最も多く、次いで「家庭・学校・職場などの手当てで済んだ」が37.1%、「医療機関に1回通院した」が17.4%となっている。

問5 ケ 未然に防ぐことができた可能性



未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が61.4%と最も多く、次いで「防ぐことはできなかった」が29.5%、「分からない」が18.9%となっている。

問5 コ 薬（風邪薬、鎮痛剤など）の服用状況



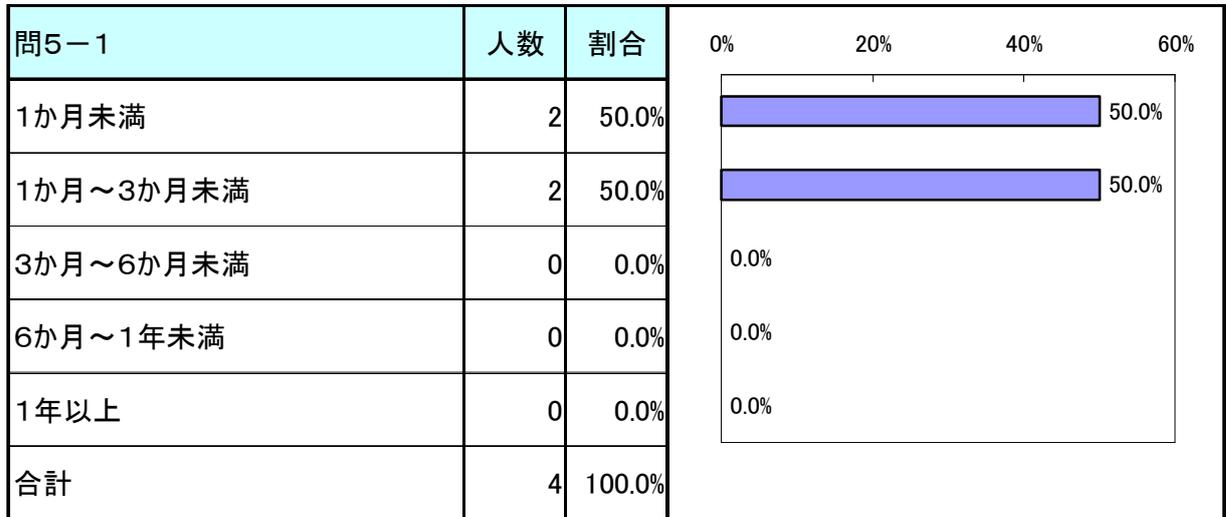
薬の服用状況については、「薬を飲んでいて」が10.6%、「薬は飲んでいない」が97.7%となっている。

問5 サ 飲酒の有無



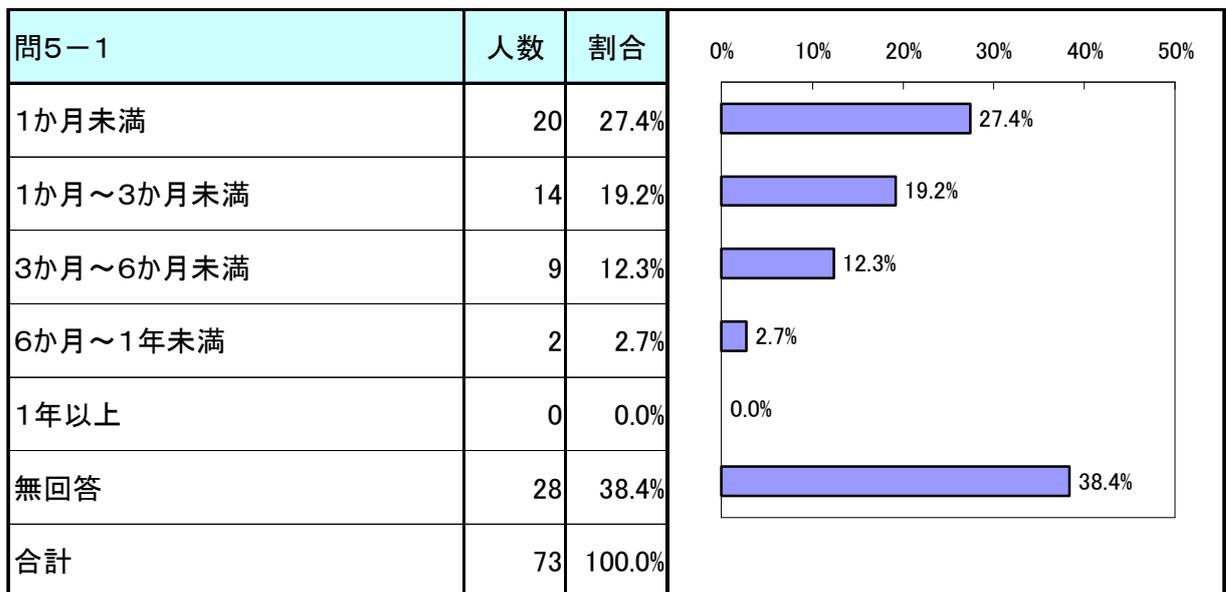
飲酒については、「お酒を飲んでいて」が6.1%、「お酒は飲んでいない」が103.0%となっている。

問5-1 医療機関にはどのくらい入院されました(されています)か。(ひとつに○)



入院した期間については、「1か月未満」と「1か月～3か月未満」が50.0%となっている。

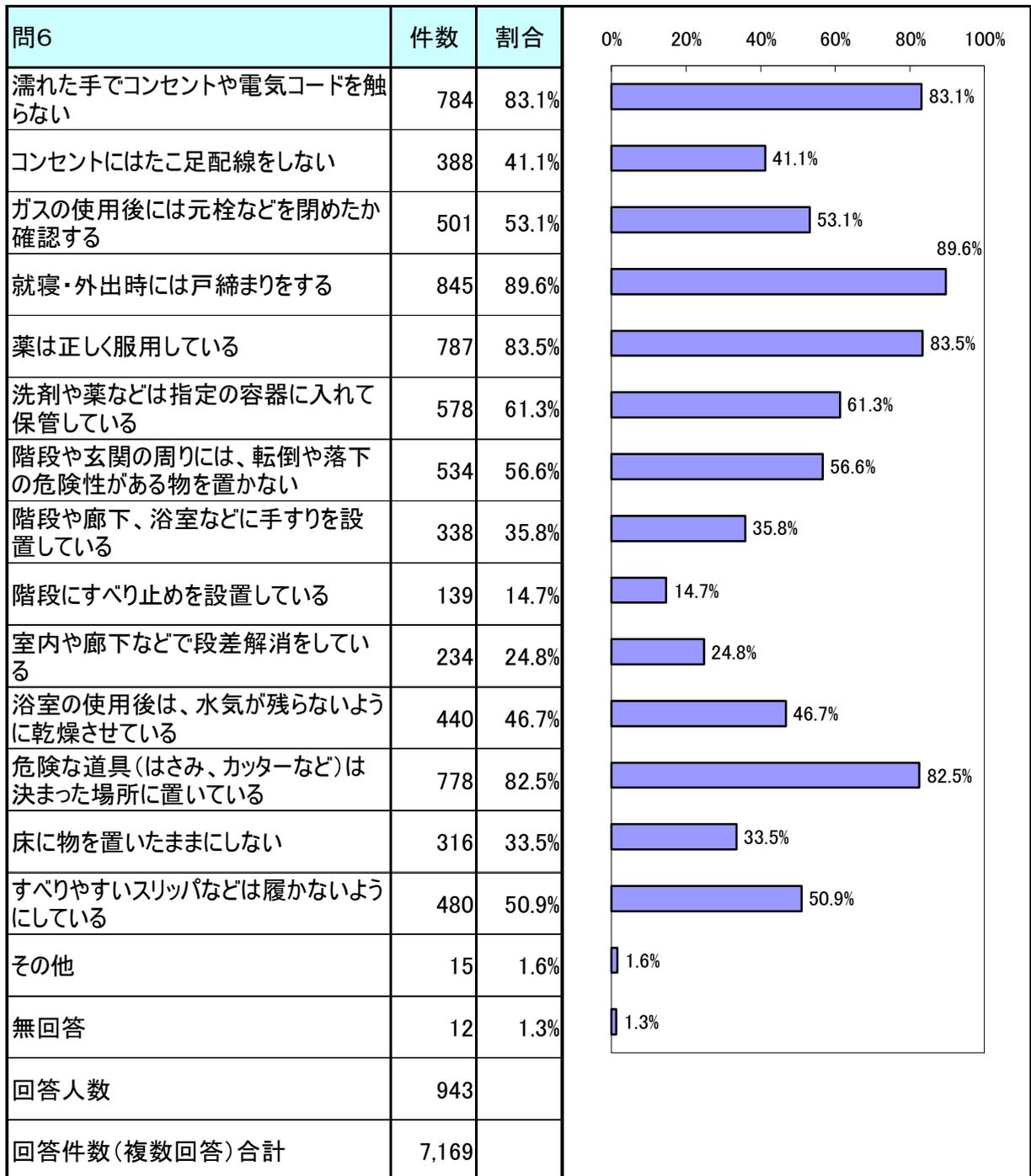
問5-1 医療機関にはどのくらい通院されました(されています)か。(ひとつに○)



通院の期間については、「1か月未満」が27.4%、「1か月～3か月未満」が19.2%、「3か月～6か月未満」が12.3%となっている。

4 家庭の安全対策に関する考え方について

問6 あなたの家庭の安全対策に関して、実践しているものをご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)



家庭で実践している安全対策については、「就寝・外出時には戸締まりをする」が89.6%と最も多く、次いで「薬は正しく服用している」が83.5%、「濡れた手でコンセントや電気コードを触らない」が83.1%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「就寝場所には高さのある家具を置かない。庭の暗い場所にセンサーライトを付けている」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している」が68.6%で、男の51.4%に比べて高くなっている。また、女の「濡れた手でコンセントや電気コードを触らない」が88.6%で、男の75.7%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない」が62.5%で、40歳未満の44.1%に比べて高くなっている。また、40歳～64歳の「床に物を置いたままにしない」が37.5%で、40歳未満の24.8%に比べて高くなっている

問6	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
濡れた手でコンセントや電気コードを触らない	784	83.1%	302	75.7%	480	88.6%	248	81.0%	530	84.3%
コンセントにはたこ足配線をししない	388	41.1%	161	40.4%	226	41.7%	101	33.0%	284	45.2%
ガスの使用後には元栓などを閉めたか確認する	501	53.1%	190	47.6%	310	57.2%	158	51.6%	339	53.9%
就寝・外出時には戸締まりをする	845	89.6%	354	88.7%	489	90.2%	268	87.6%	569	90.5%
薬は正しく服用している	787	83.5%	321	80.5%	464	85.6%	247	80.7%	533	84.7%
洗剤や薬などは指定の容器に入れて保管している	578	61.3%	205	51.4%	372	68.6%	178	58.2%	395	62.8%
階段や玄関の周りには、転倒や落下の危険性がある物を置かない	534	56.6%	208	52.1%	324	59.8%	135	44.1%	393	62.5%
階段や廊下、浴室などに手すりを設置している	338	35.8%	136	34.1%	201	37.1%	88	28.8%	248	39.4%
階段にすべり止めを設置している	139	14.7%	62	15.5%	77	14.2%	29	9.5%	109	17.3%
室内や廊下などで段差解消をしている	234	24.8%	109	27.3%	125	23.1%	55	18.0%	177	28.1%
浴室の使用後は、水気が残らないように乾燥させている	440	46.7%	200	50.1%	239	44.1%	140	45.8%	293	46.6%
危険な道具(はさみ、カッターなど)は決まった場所に置いている	778	82.5%	320	80.2%	457	84.3%	241	78.8%	529	84.1%
床に物を置いたままにしない	316	33.5%	128	32.1%	188	34.7%	76	24.8%	236	37.5%
すべりやすいスリッパなどは履かないようにしている	480	50.9%	175	43.9%	304	56.1%	132	43.1%	345	54.8%
その他	15	1.6%	5	1.3%	10	1.8%	7	2.3%	8	1.3%
無回答	12	1.3%	7	1.8%	5	0.9%	3	1.0%	9	1.4%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	7,169		2,883		4,271		2,106		4,997	

問7 防災、防犯、事故防止などに関する情報を掲載した冊子「わが家の安心安全ガイドブック」を平成24年3月に各世帯に配付しておりますがご存知ですか。
(ひとつに○)

問7	人数	割合	0%	20%	40%	60%
知っている	428	45.4%				
知らない	485	51.4%				
無回答	30	3.2%				
合計	943	100.0%				

「わが家の安心安全ガイドブック」の認知度については、「知っている」が45.4%、「知らない」が51.4%となっている。

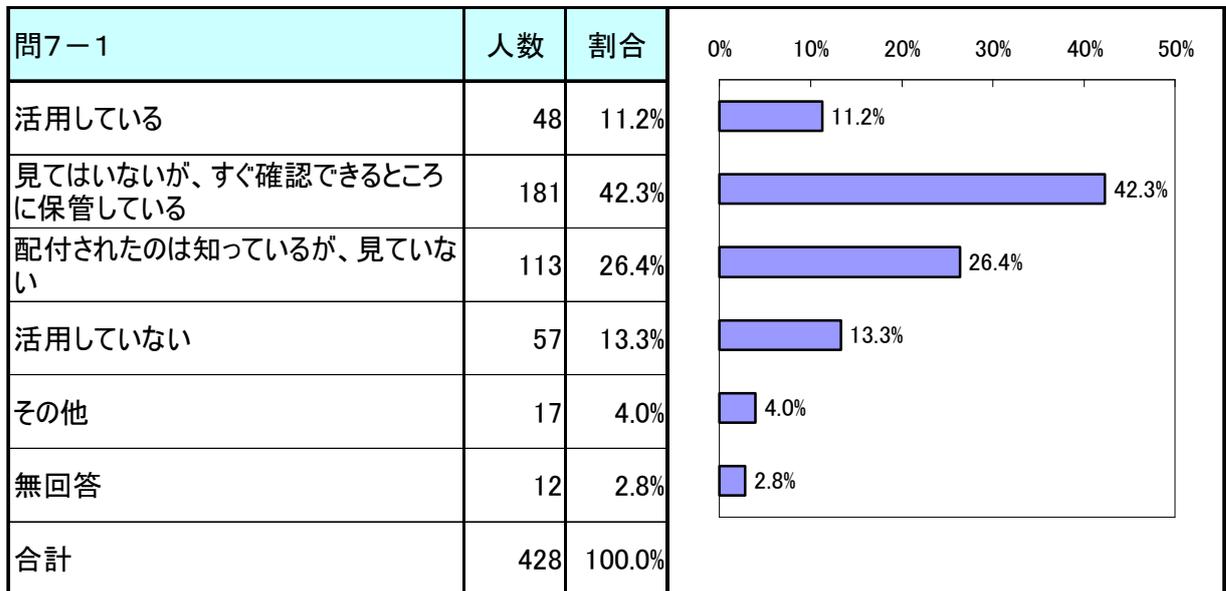
【属性別特徴】

性別では、女の「知っている」が53.3%で、男の34.8%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が51.4%で、40歳未満の32.7%に比べて高くなっている。

問7	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	428	45.4%	139	34.8%	289	53.3%	100	32.7%	323	51.4%
知らない	485	51.4%	244	61.2%	239	44.1%	201	65.7%	282	44.8%
無回答	30	3.2%	16	4.0%	14	2.6%	5	1.6%	24	3.8%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問7-1 「わが家の安心安全ガイドブック」を活用していますか。(ひとつに○)



「わが家の安心安全ガイドブック」の活用については、「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」が42.3%と最も多く、次いで「配付されたのは知っているが、見ていない」が26.4%、「活用していない」が13.3%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「一読して保管している」等が挙げられた。

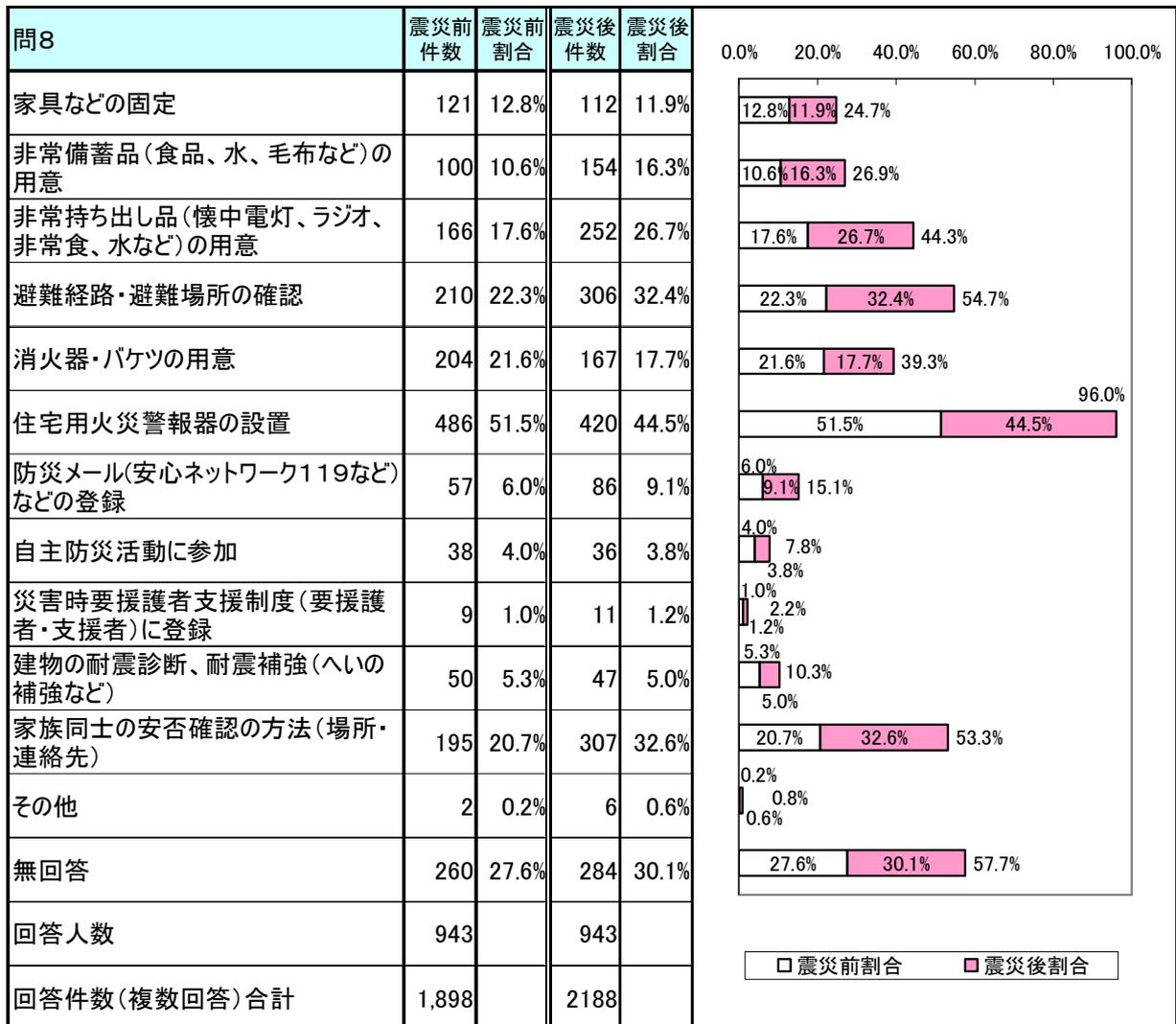
【属性別特徴】

性別では、女の「見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している」が45.0%で、男の36.7%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問7-1	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活用している	48	11.2%	19	13.7%	29	10.0%	11	11.0%	37	11.5%
見てはいないが、すぐ確認できるところに保管している	181	42.3%	51	36.7%	130	45.0%	44	44.0%	136	42.1%
配付されたのは知っているが、見ていない	113	26.4%	40	28.8%	73	25.3%	30	30.0%	82	25.4%
活用していない	57	13.3%	20	14.4%	37	12.8%	12	12.0%	43	13.3%
その他	17	4.0%	3	2.2%	14	4.8%	2	2.0%	15	4.6%
無回答	12	2.8%	6	4.3%	6	2.1%	1	1.0%	10	3.1%
合計	428	100.0%	139	100.0%	289	100.0%	100	100.0%	323	100.0%

問8 あなたの家庭では、災害に備えて、東日本大震災の前はどのような対策をとっていましたか。また、東日本大震災後は新たにどのような対策をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)



家庭での災害対策としては、設置が義務づけられた「住宅用火災警報器の設置」が震災前・後を通じて一番多くなっている。

その他の災害対策については、「避難経路・避難場所の確認」や「家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)」が多くなっている。

また、「防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録」や「自主防災活動に参加」などについては、取組みの割合が低くなっている。

「震災前」

【属性別特徴】

性別では、女の「避難経路・避難場所の確認」が24.5%で、男の19.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「消火器・バケツの用意」が24.8%で、40歳未満の14.4%に比べて高くなっている。また、40歳～64歳の「避難経路・避難場所の確認」が25.1%で、40歳未満の17.0%に比べてやや高くなっている。

問8 震災前	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家具などの固定	121	12.8%	50	12.5%	70	12.9%	31	10.1%	89	14.1%
非常備蓄品(食品、水、毛布など)の用意	100	10.6%	38	9.5%	61	11.3%	26	8.5%	73	11.6%
非常持ち出し品(懐中電灯、ラジオ、非常食、水など)の用意	166	17.6%	71	17.8%	93	17.2%	39	12.7%	126	20.0%
避難経路・避難場所の確認	210	22.3%	77	19.3%	133	24.5%	52	17.0%	158	25.1%
消火器・バケツの用意	204	21.6%	83	20.8%	120	22.1%	44	14.4%	156	24.8%
住宅用火災警報器の設置	486	51.5%	207	51.9%	279	51.5%	150	49.0%	333	52.9%
防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録	57	6.0%	27	6.8%	30	5.5%	20	6.5%	36	5.7%
自主防災活動に参加	38	4.0%	19	4.8%	19	3.5%	12	3.9%	26	4.1%
災害時要援護者支援制度(要援護者・支援者)に登録	9	1.0%	7	1.8%	2	0.4%	3	1.0%	6	1.0%
建物の耐震診断、耐震補強(へいの補強など)	50	5.3%	19	4.8%	31	5.7%	12	3.9%	38	6.0%
家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)	195	20.7%	72	18.0%	123	22.7%	56	18.3%	139	22.1%
その他	2	0.2%	1	0.3%	1	0.2%	1	0.3%	1	0.2%
無回答	260	27.6%	120	30.1%	140	25.8%	96	31.4%	161	25.6%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	1,898		791		1,102		542		1,342	

「震災後」

【属性別特徴】

性別では、女の「避難経路・避難場所の確認」が38.0%で、男の25.1%に比べて高くなっている。また、女の「家族同士の安否確認の方法（場所・連絡先）」が37.1%で、男の26.6%に比べて高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録」が13.1%で、40歳～64歳の7.2%に比べてやや高くなっている。

問8 震災後	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家具などの固定	112	11.9%	49	12.3%	63	11.6%	38	12.4%	74	11.8%
非常備蓄品(食品、水、毛布など)の用意	154	16.3%	59	14.8%	94	17.3%	52	17.0%	101	16.1%
非常持ち出し品(懐中電灯、ラジオ、非常食、水など)の用意	252	26.7%	99	24.8%	152	28.0%	78	25.5%	171	27.2%
避難経路・避難場所の確認	306	32.4%	100	25.1%	206	38.0%	99	32.4%	204	32.4%
消火器・バケツの用意	167	17.7%	68	17.0%	99	18.3%	47	15.4%	118	18.8%
住宅用火災警報器の設置	420	44.5%	163	40.9%	257	47.4%	136	44.4%	281	44.7%
防災メール(安心ネットワーク119など)などの登録	86	9.1%	36	9.0%	50	9.2%	40	13.1%	45	7.2%
自主防災活動に参加	36	3.8%	20	5.0%	16	3.0%	11	3.6%	24	3.8%
災害時要援護者支援制度(要援護者・支援者)に登録	11	1.2%	6	1.5%	5	0.9%	2	0.7%	9	1.4%
建物の耐震診断、耐震補強(へいの補強など)	47	5.0%	14	3.5%	33	6.1%	14	4.6%	33	5.2%
家族同士の安否確認の方法(場所・連絡先)	307	32.6%	106	26.6%	201	37.1%	108	35.3%	196	31.2%
その他	6	0.6%	0	0.0%	6	1.1%	2	0.7%	3	0.5%
無回答	284	30.1%	142	35.6%	141	26.0%	78	25.5%	203	32.3%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	2,188		862		1,323		705		1,462	

問9 その他、ご家族で「事故やけが」を防止するために、工夫していることなどありましたら、ご記入ください。

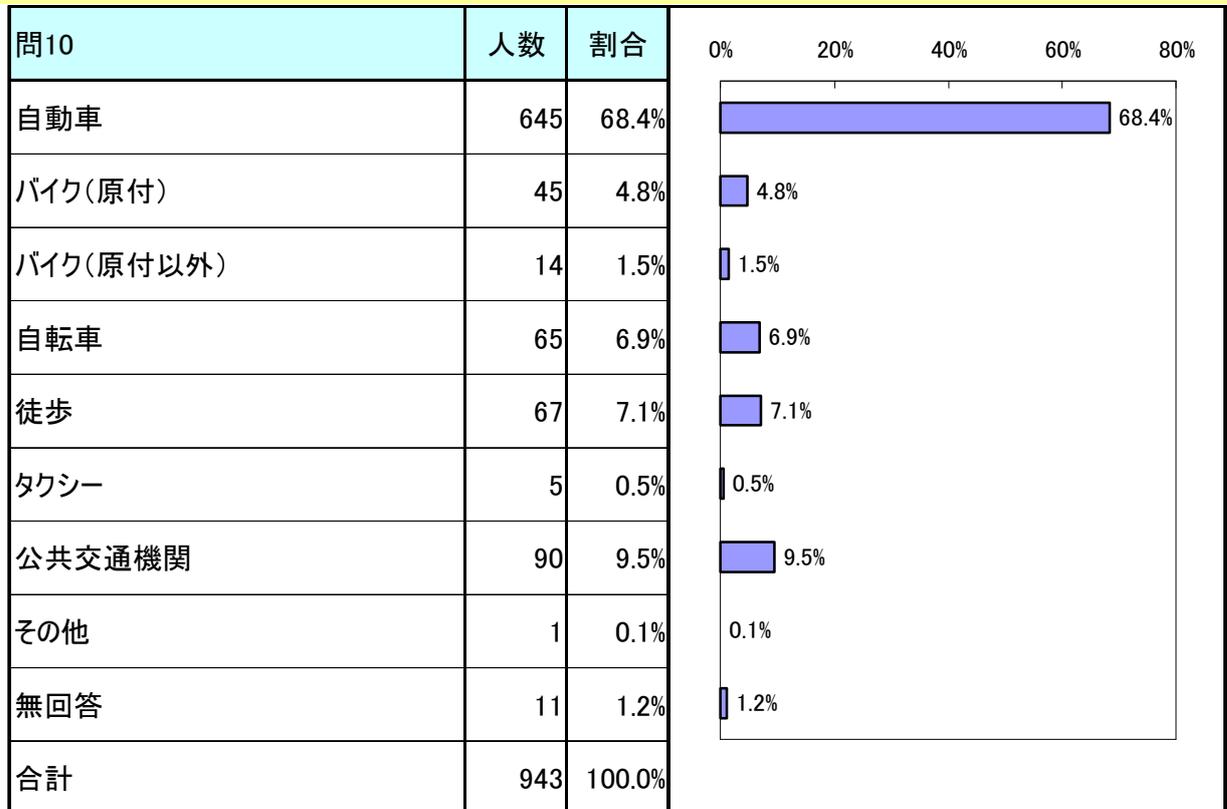
【事故やけが防止の工夫(主な項目)】

項目	具体例
注意喚起	・家族に注意を呼びかける。
	・時間に余裕をもって行動する。
	・交通安全を守る。
	・常に注意しながら行動する。
環境改善	・通路や高い所に物を置かない。
	・刃物などの管理保管には、特に注意している。
	・和室とフローリングの段差に三角板を固定。 ・玄関・トイレ・浴室・廊下などに手すりを設置。
子どもの事故防止のための配慮	・夕方には子ども一人で外出させない。
	・子どもの手の届くところに危ない物を置かない。
	・角があるものをスポンジで覆う。
	・交通安全に注意させる。
交通安全	・時間に余裕をもって運転する。
	・自転車に乗るときはヘルメットを着用する。
コンセント、ガス等に対する注意	・コンセントのホコリをとる。
	・コンセントをこまめに抜く。

事故やけが防止の工夫については、「家族に注意を呼びかける」、「時間に余裕をもって行動する」などの『注意喚起』に関することや、「通路や高い所に物を置かない」、「刃物などの管理保管には、特に注意している」などの『環境改善』に関することや、「夕方には子ども一人で外出させない」、「子どもの手の届くところに危ない物を置かない」などの『子どもの事故防止のための配慮』に関することなどが挙げられた。

5 交通安全について

問10 あなたが最も利用する移動手段は何ですか。(ひとつに○)



最も利用する移動手段については、「自動車」が68.4%と最も多く、次いで「公共交通機関」が9.5%、「徒歩」が7.1%となっている。

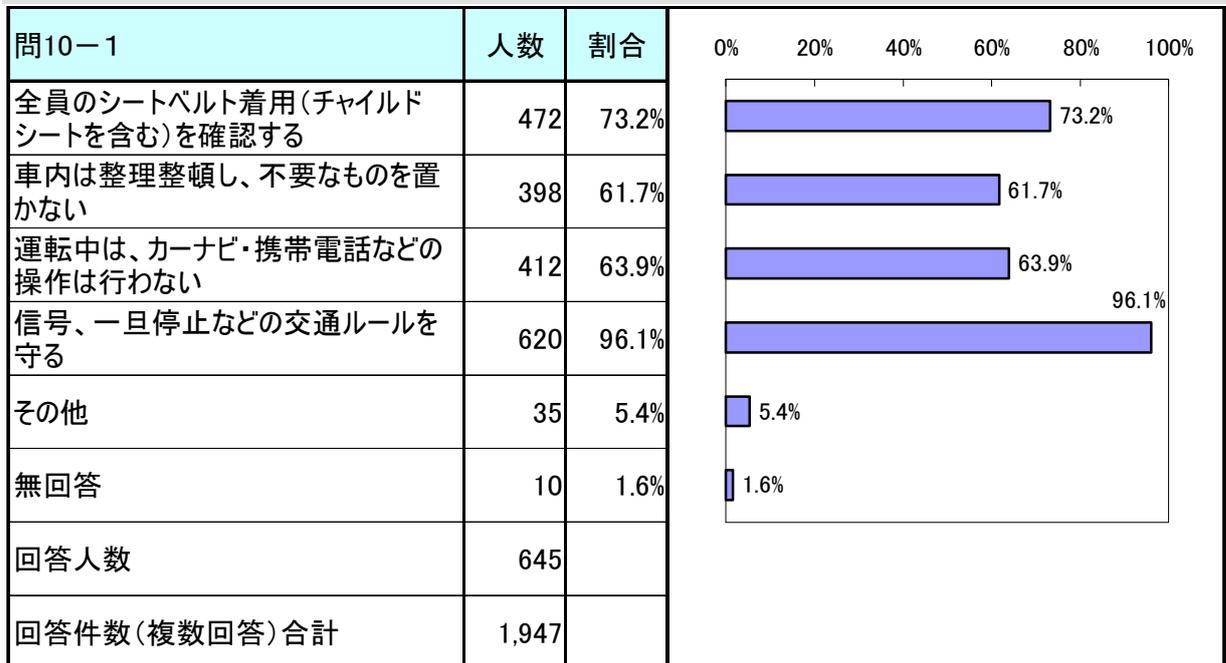
【属性別特徴】

性別では、女の「公共交通機関」が13.8%で、男の3.8%に比べて高くなっている。
また、男の「自動車」が72.7%で、女の65.3%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「自動車」が72.3%で、40歳未満の60.8%に比べて高くなっている。

問10	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自動車	645	68.4%	290	72.7%	354	65.3%	186	60.8%	455	72.3%
バイク(原付)	45	4.8%	26	6.5%	19	3.5%	20	6.5%	24	3.8%
バイク(原付以外)	14	1.5%	13	3.3%	1	0.2%	8	2.6%	5	0.8%
自転車	65	6.9%	28	7.0%	37	6.8%	30	9.8%	35	5.6%
徒歩	67	7.1%	19	4.8%	47	8.7%	22	7.2%	43	6.8%
タクシー	5	0.5%	3	0.8%	2	0.4%	1	0.3%	4	0.6%
公共交通機関	90	9.5%	15	3.8%	75	13.8%	37	12.1%	53	8.4%
その他	1	0.1%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
無回答	11	1.2%	4	1.0%	7	1.3%	2	0.7%	9	1.4%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 10-1 あなたが、自動車を運転する際に実行していることをご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)



自動車の運転の際に実行していることについては、「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」が 96.1%と最も多く、次いで「全員のシートベルト着用（チャイルドシートを含む）を確認する」が 73.2%、「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」が 63.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「運転中はタバコ禁止」、「心が落ち着かない時は運転しない」等が挙げられた。

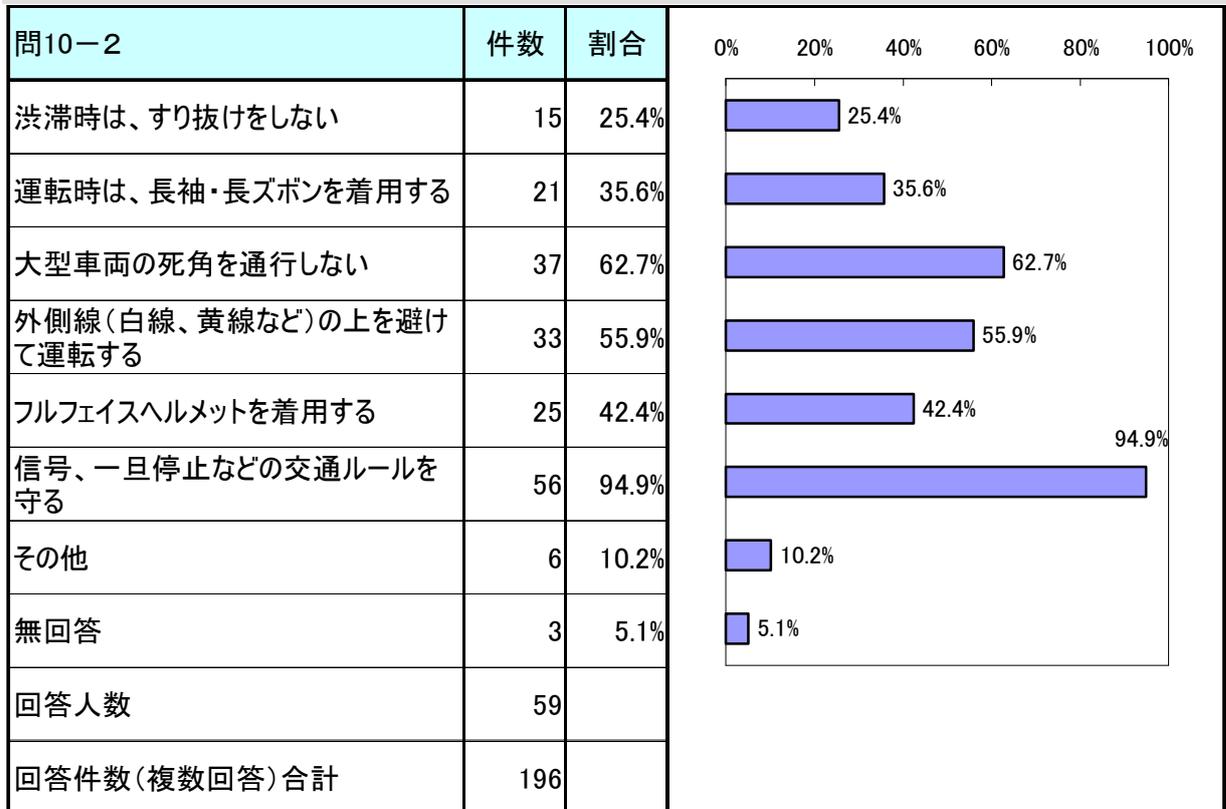
【属性別特徴】

性別では、女の「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」が71.2%で、男の54.8%に比べて高くなっている。また、女の「車内は整理整頓し、不要なものを置かない」が65.3%で、男の57.2%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない」が67.7%で、40歳未満の55.4%に比べて高くなっている。また、40歳～64歳の「車内は整理整頓し、不要なものを置かない」が65.1%で、40歳未満の53.2%に比べて高くなっている。

問10-1	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全員のシートベルト着用(チャイルドシートを含む)を確認する	472	73.2%	211	72.8%	260	73.4%	141	75.8%	329	72.3%
車内は整理整頓し、不要なものを置かない	398	61.7%	166	57.2%	231	65.3%	99	53.2%	296	65.1%
運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作は行わない	412	63.9%	159	54.8%	252	71.2%	103	55.4%	308	67.7%
信号、一旦停止などの交通ルールを守る	620	96.1%	277	95.5%	342	96.6%	182	97.8%	435	95.6%
その他	35	5.4%	13	4.5%	22	6.2%	10	5.4%	25	5.5%
無回答	10	1.6%	3	1.0%	7	2.0%	1	0.5%	8	1.8%
回答人数	645		290		354		186		455	
回答件数(複数回答)合計	1,947		829		1,114		536		1,401	

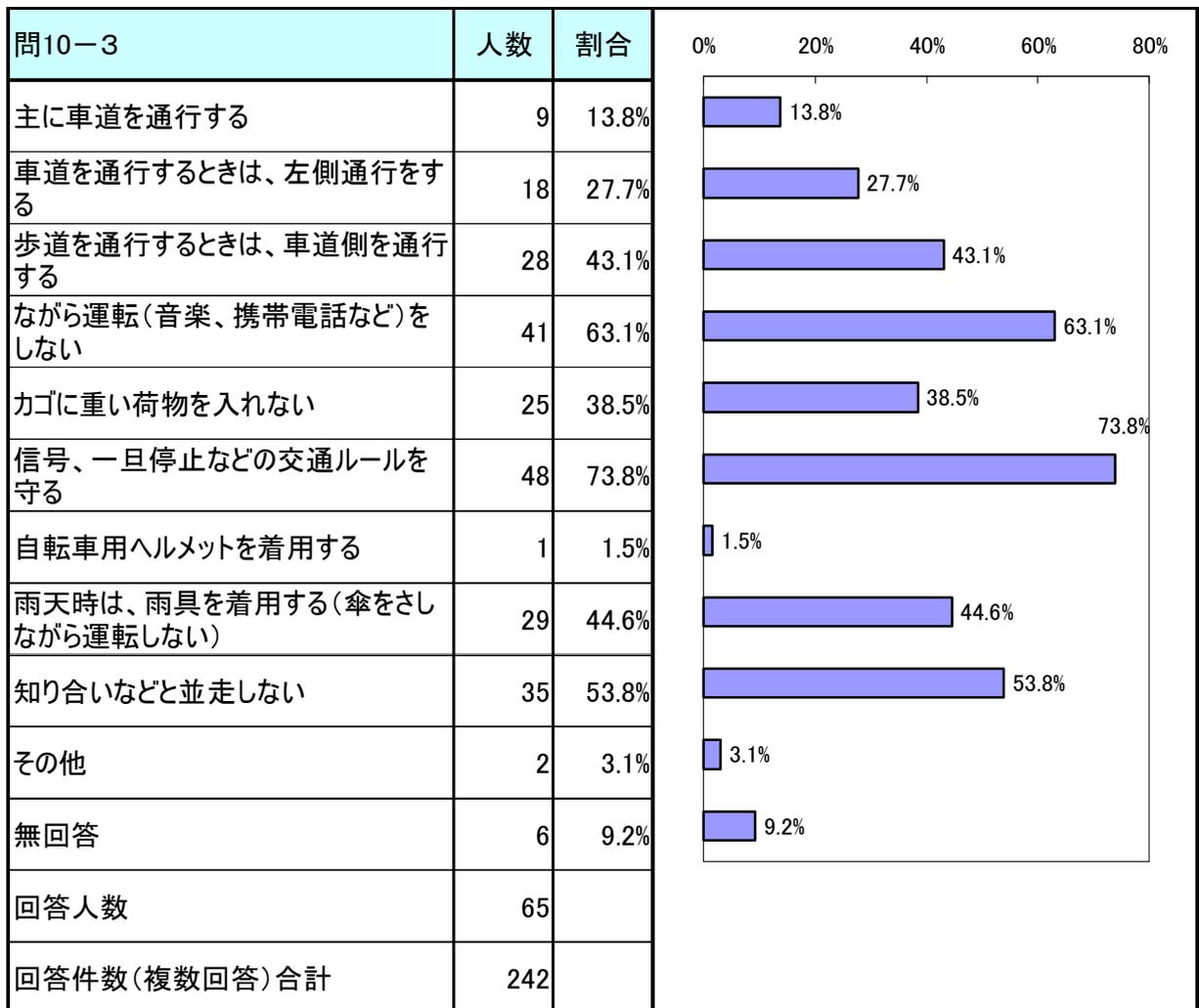
問 10-2 あなたが、バイクを運転する際に実行していることをご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)



バイク等の運転の際に実行していることについては、「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」が94.9%と最も多く、次いで「大型車両の死角を通行しない」が62.7%、「外側線(白線、黄線など)の上を避けて運転する」が55.9%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「降灰が多い時はあまり端を走行しない」等が挙げられた。

問 10-3 あなたが、自転車を運転する際に実行していることをご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)

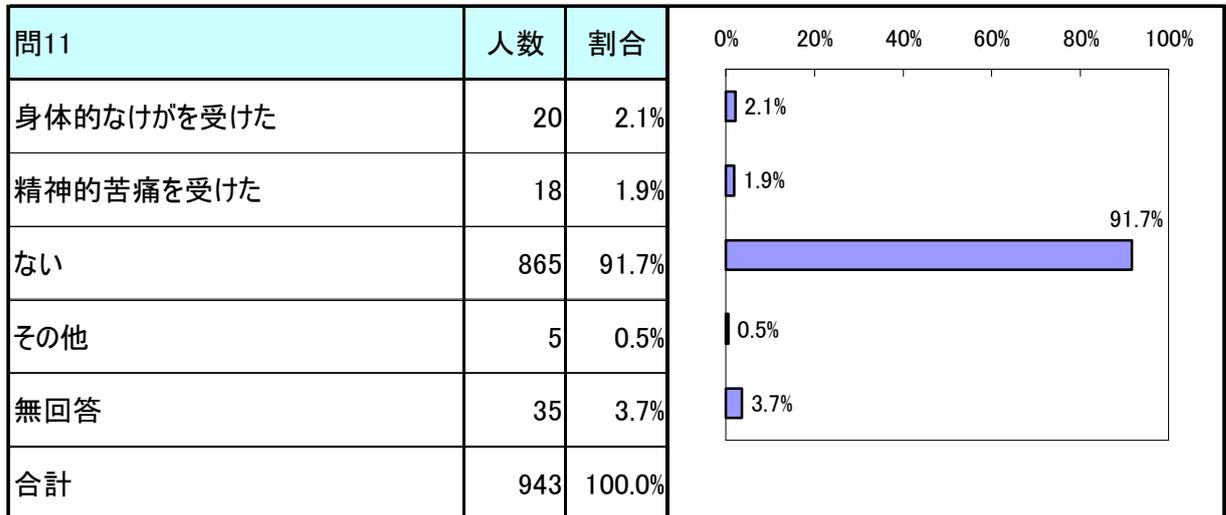


自転車の運転の際に実行していることについては、「信号、一旦停止などの交通ルールを守る」が 73.8%と最も多く、次いで「ながら運転(音楽、携帯電話など)をしない」が 63.1%、「知り合いなどと並走しない」が 53.8%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「雨の日は自転車に乗らない」等が挙げられた。

6 その他の事故やけがについて（犯罪・暴力・自殺）

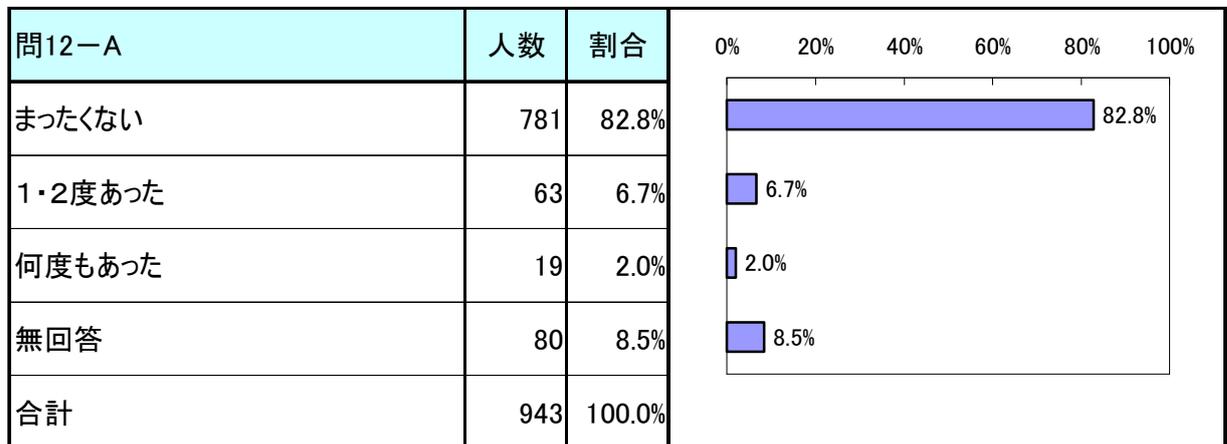
問 11 あなたはこれまでに、犯罪による事故やけがの経験がありますか。
（ひとつに○）



犯罪による事故やけがの経験については、「ない」が91.7%と最も多く、「身体的なけがを受けた」が2.1%、「精神的苦痛を受けた」が1.9%となっている。

問 12 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(ひとつに○)

問 12-A なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた。(ひとつに○)



身体に対する暴力を受けた経験については、「まったくない」が 82.8%と最も多く、「1・2度あった」が 6.7%、「何度もあった」が 2.0%となっている。

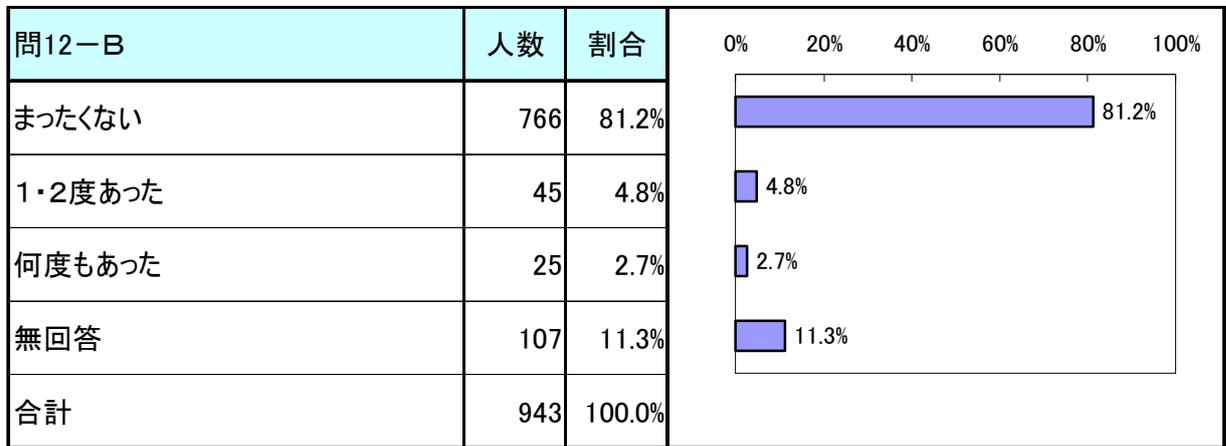
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問12-A	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	781	82.8%	349	87.5%	432	79.7%	259	84.6%	515	81.9%
1・2度あった	63	6.7%	10	2.5%	53	9.8%	23	7.5%	40	6.4%
何度もあった	19	2.0%	3	0.8%	16	3.0%	7	2.3%	12	1.9%
無回答	80	8.5%	37	9.3%	41	7.6%	17	5.6%	62	9.9%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 12-B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。(ひとつに○)



精神的苦痛を受けた経験については、「まったくない」が81.2%と最も多く、「1・2度あった」が4.8%、「何度もあった」が2.7%となっている。

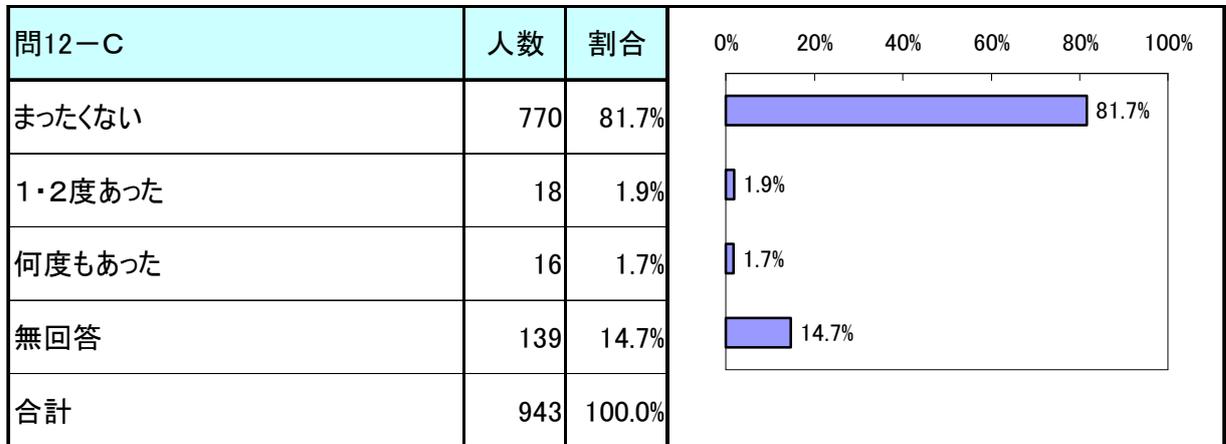
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問12-B	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	766	81.2%	334	83.7%	432	79.7%	258	84.3%	501	79.7%
1・2度あった	45	4.8%	12	3.0%	33	6.1%	14	4.6%	31	4.9%
何度もあった	25	2.7%	5	1.3%	20	3.7%	11	3.6%	14	2.2%
無回答	107	11.3%	48	12.0%	57	10.5%	23	7.5%	83	13.2%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 12-C 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された。
(ひとつに○)



性的行為の強要等の経験については、「まったくない」が81.7%と最も多く、「1・2度あった」が1.9%、「何度もあった」が1.7%となっている。

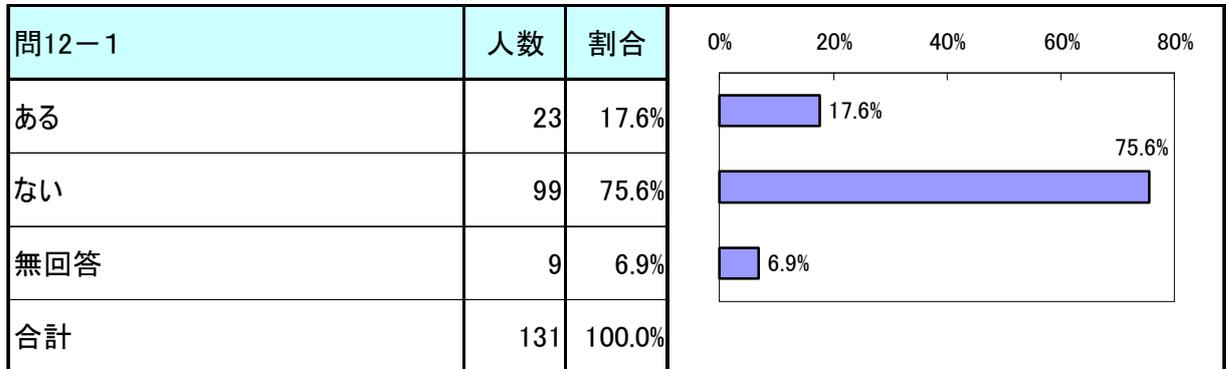
【属性別特徴】

性別では、女の「1・2度あった」、「何度もあった」の割合が、男の割合に比べていずれも高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

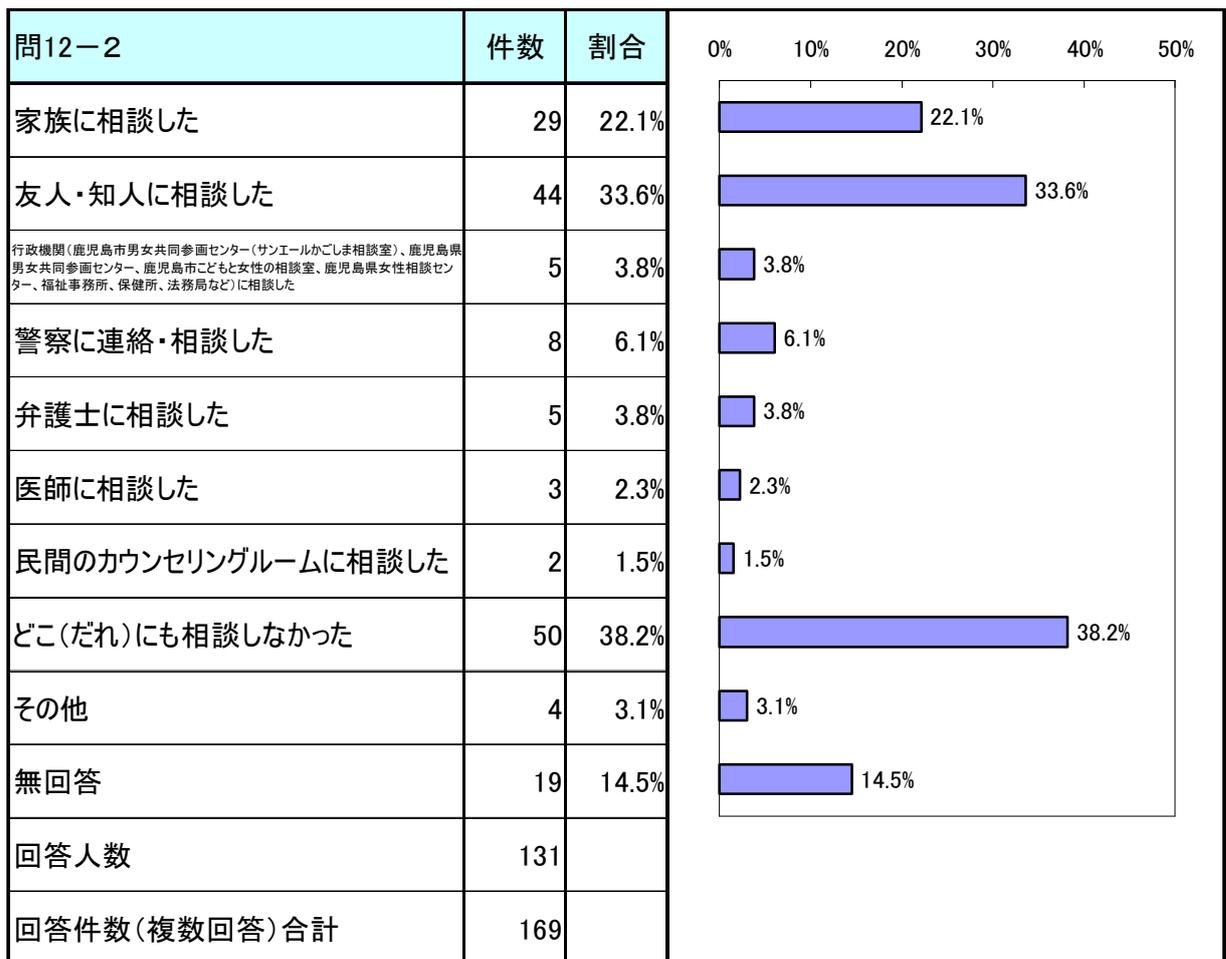
問12-C	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
まったくない	770	81.7%	329	82.5%	441	81.4%	265	86.6%	498	79.2%
1・2度あった	18	1.9%	0	0.0%	18	3.3%	4	1.3%	14	2.2%
何度もあった	16	1.7%	1	0.3%	15	2.8%	8	2.6%	8	1.3%
無回答	139	14.7%	69	17.3%	68	12.5%	29	9.5%	109	17.3%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 12-1 あなたはその相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(ひとつに○)



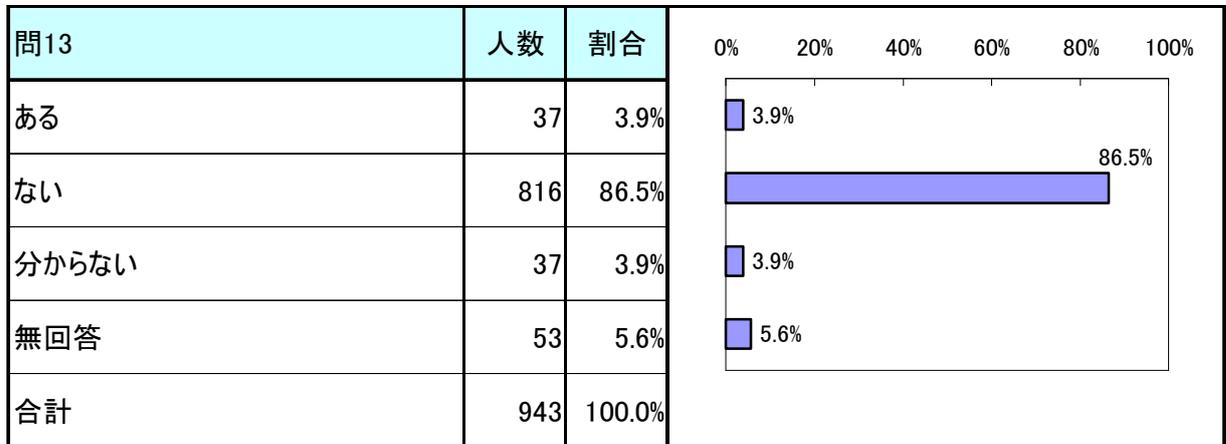
命の危険を感じたことがあるかについては、「ある」が17.6%、「ない」が75.6%となっている。

問 12-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)



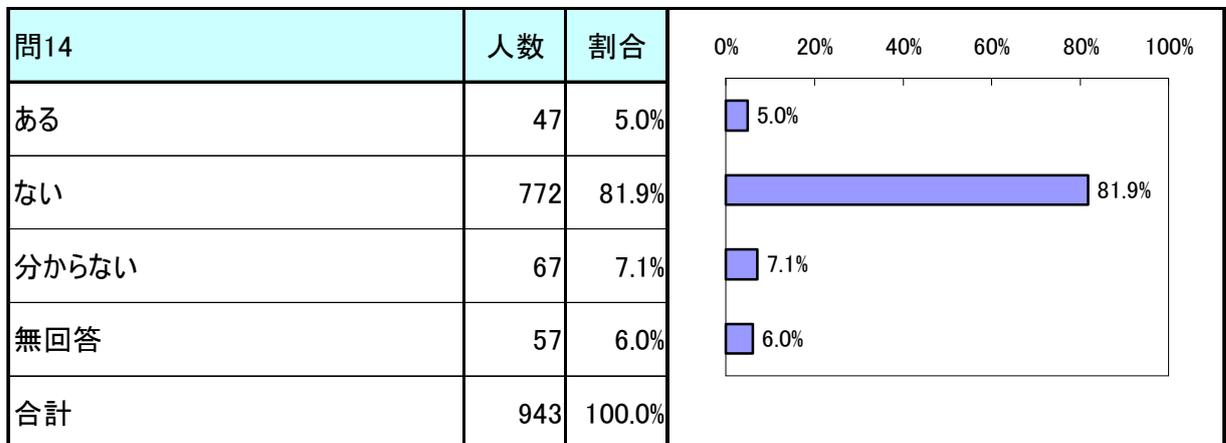
相談先については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が38.2%と最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が33.6%、「家族に相談した」が22.1%となっている。

問 13 あなたはこれまでに、家族から「虐待だったかもしれない」と思う行為を受けた経験がありますか。(ひとつに○)



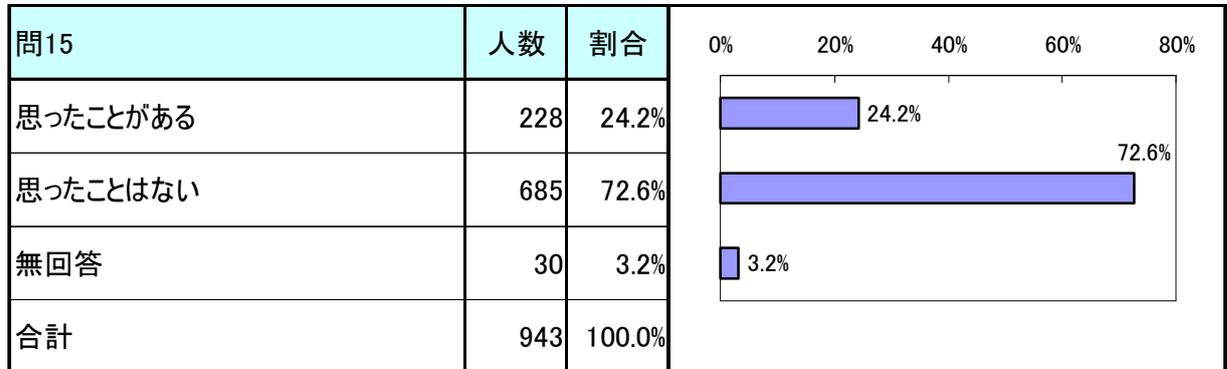
家族からの虐待だったかもしれないと思う行為を受けた経験については、「ある」が3.9%、「ない」が86.5%となっている。

問 14 あなたはこれまでに、家族に対し「虐待だったかもしれない」と思う行為をした経験がありますか。(ひとつに○)



家族への虐待だったかもしれないと思う行為をした経験については、「ある」が5.0%、「ない」が81.9%となっている。

問 15 あなたはこれまでに、自殺したい（死にたい）と思ったことがありますか。
（ひとつに○）



自殺したいと思った経験については、「思ったことがある」が24.2%、「思ったことはない」が72.6%となっている。

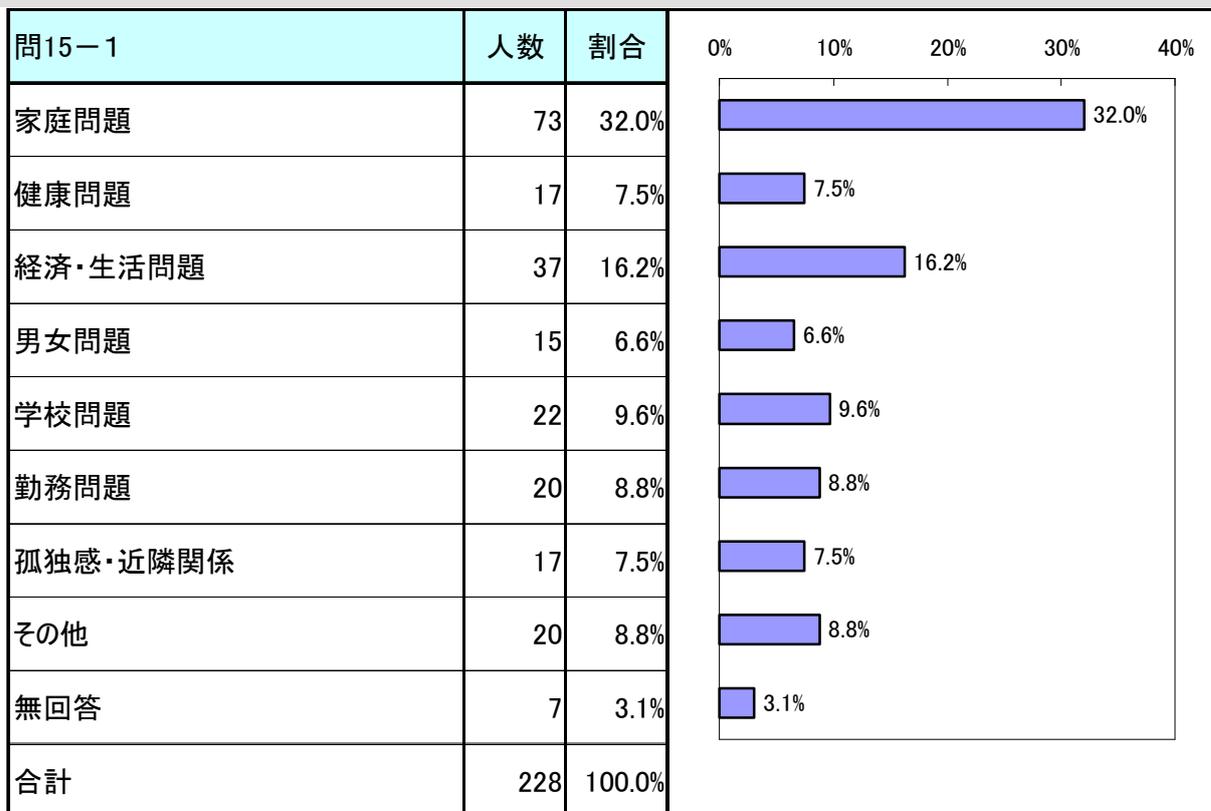
【属性別特徴】

性別では、女の「思ったことがある」が27.3%で、男の19.8%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳未満の「思ったことがある」が28.1%で、40歳～64歳の22.4%に比べてやや高くなっている。

問15	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
思ったことがある	228	24.2%	79	19.8%	148	27.3%	86	28.1%	141	22.4%
思ったことはない	685	72.6%	306	76.7%	379	69.9%	216	70.6%	462	73.4%
無回答	30	3.2%	14	3.5%	15	2.8%	4	1.3%	26	4.1%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

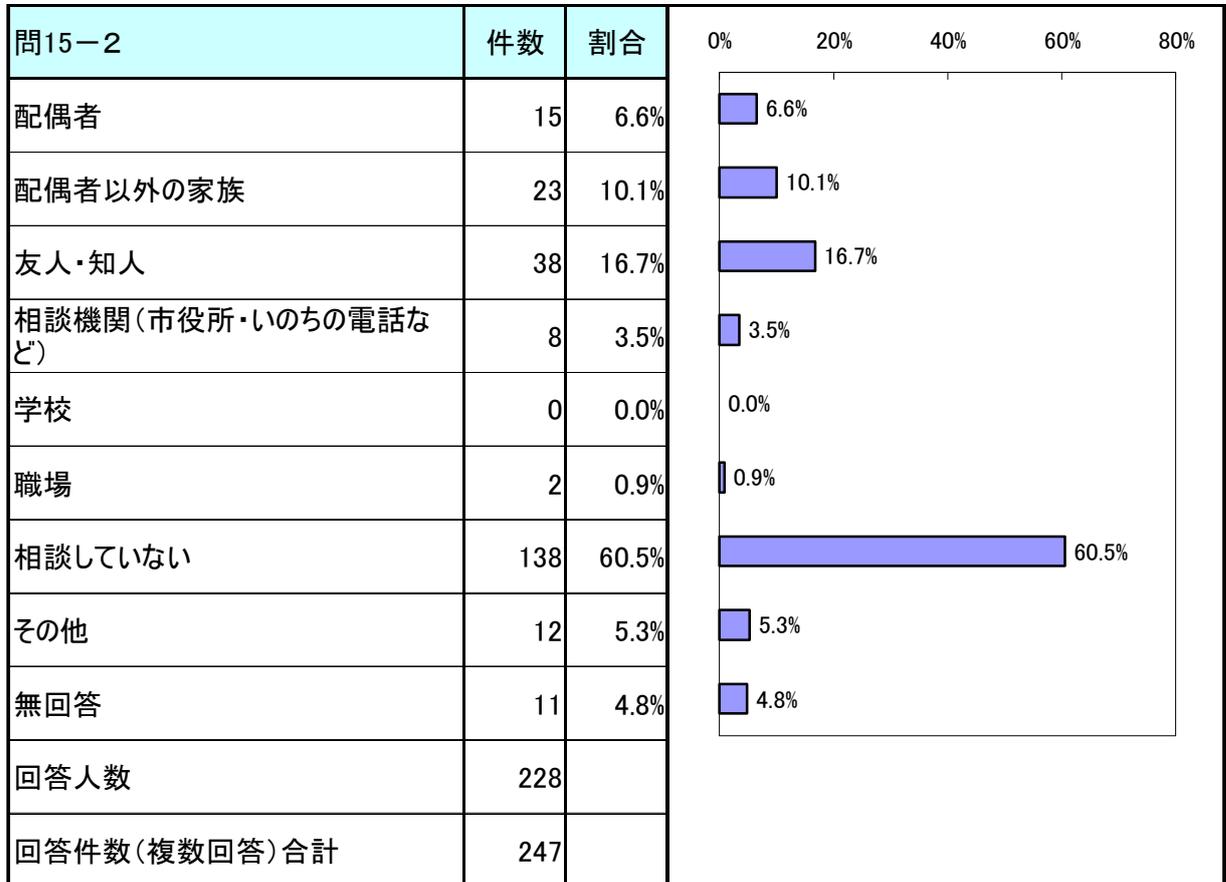
問 15-1 自殺したいと思ったときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)



自殺したいと思った一番の原因については、「家庭問題」が 32.0%と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 16.2%、「学校問題」が 9.6%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「人間関係」等が挙げられた。

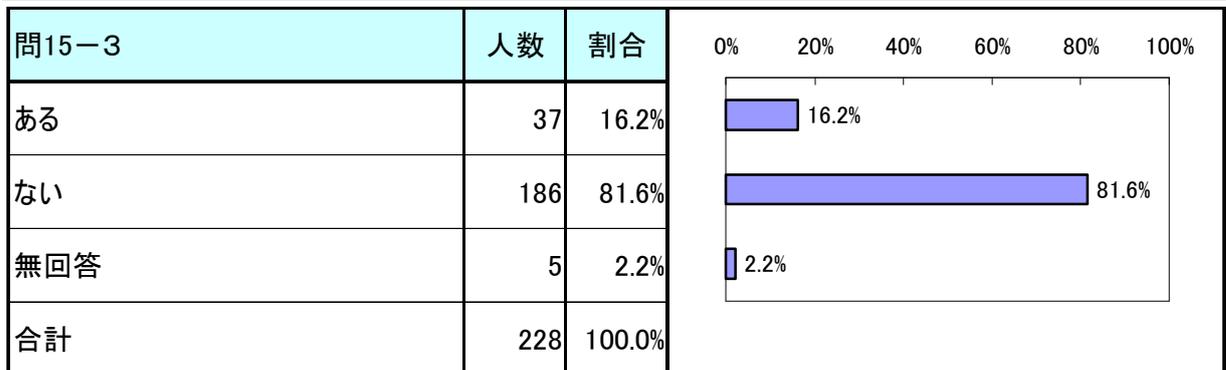
問 15-2 あなたは、自殺したいと思ったときにだれか（どこか）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）



自殺したいと思ったときの相談先については、「相談していない」が60.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が16.7%、「配偶者以外の家族」が10.1%となっている。

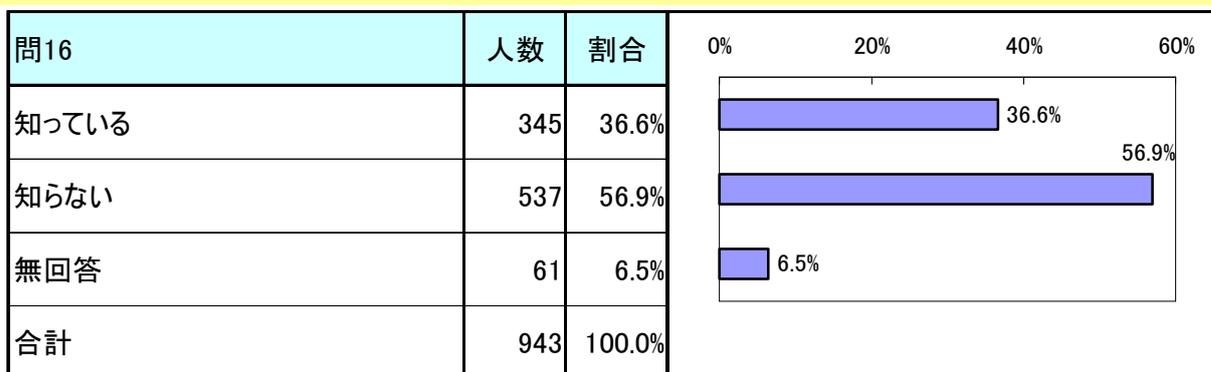
「その他」の具体的な内容としては、「カウンセラー」「病院」等が挙げられた。

問 15-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。（ひとつに○）



医療機関の受診については、「ある」が16.2%、「ない」が81.6%となっている。

問 16 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(ひとつに○)



自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が36.6%、「知らない」が56.9%となっている。

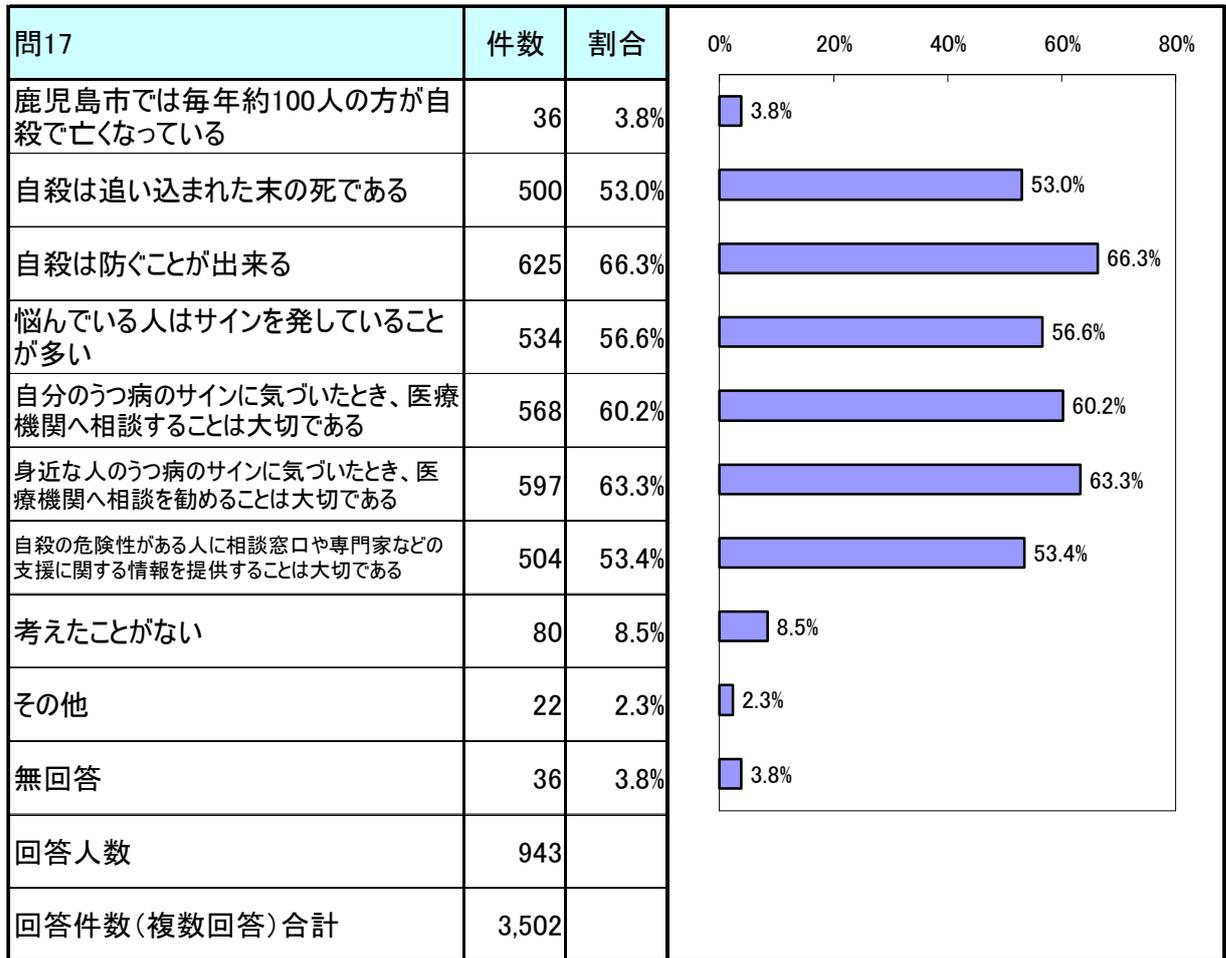
【属性別特徴】

性別では、女の「知っている」が40.8%で、男の31.1%に比べてやや高くなっている。

年齢別では、40歳～64歳の「知っている」が39.0%で、40歳未満の32.7%に比べてやや高くなっている。

問16	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	345	36.6%	124	31.1%	221	40.8%	100	32.7%	245	39.0%
知らない	537	56.9%	249	62.4%	287	53.0%	194	63.4%	335	53.3%
無回答	61	6.5%	26	6.5%	34	6.3%	12	3.9%	49	7.8%
合計	943	100.0%	399	100.0%	542	100.0%	306	100.0%	629	100.0%

問 17 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



自殺について知っていることについては、「自殺は防ぐことが出来る」が 66.3%と最も多く、次いで「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である」が 63.3%、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 60.2%となっている。

「その他」の具体的な内容としては、「日本では3万人超が自殺で亡くなっている」、「聞いてあげる事が大切」等が挙げられた。

【属性別特徴】

性別では、女の「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が66.2%で、男の52.4%に比べて高くなっている。また、女の「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である」が68.3%で、男の56.9%に比べて高くなっている。

年齢別では、大きな違いはみられない。

問17	全体		性別				年齢			
			男		女		40歳未満		40歳～64歳	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
鹿児島市では毎年約100人の方が自殺で亡くなっている	36	3.8%	14	3.5%	22	4.1%	7	2.3%	29	4.6%
自殺は追い込まれた末の死である	500	53.0%	209	52.4%	291	53.7%	170	55.6%	327	52.0%
自殺は防ぐことができる	625	66.3%	248	62.2%	377	69.6%	205	67.0%	415	66.0%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	534	56.6%	211	52.9%	323	59.6%	170	55.6%	360	57.2%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	568	60.2%	209	52.4%	359	66.2%	190	62.1%	376	59.8%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談を勧めることは大切である	597	63.3%	227	56.9%	370	68.3%	195	63.7%	399	63.4%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	504	53.4%	203	50.9%	301	55.5%	158	51.6%	344	54.7%
考えたことがない	80	8.5%	45	11.3%	34	6.3%	25	8.2%	52	8.3%
その他	22	2.3%	10	2.5%	12	2.2%	6	2.0%	16	2.5%
無回答	36	3.8%	18	4.5%	17	3.1%	5	1.6%	30	4.8%
回答人数	943		399		542		306		629	
回答件数(複数回答)合計	3,502		1,394		2,106		1,131		2,348	

問 18 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

相手のある事故の場合はどうしても無いと考えていたが、お互いが気をつけることによって未然に防ぐということは有り得るんだと思えた。

けがの予防はやはり体力づくりが必要だと思う。事故防止は、体調を整え、急がず緊張感をもってと常に思う。

今回のアンケートで「事故やけがは予防できる」ということを考えさせられました。これまでは「けがをしちゃった」で終わっていたのですが、予防できるという視点から周囲のことを見直すことが大切だと気付かされました。

時間に余裕を持って行動する。人の話を聞く。落ち着いて行動する。

仕事や家事等で重い物を持ったり、中腰になったりすることが多い人は事前に腰にベルトをつけておくと少しは予防になると思います。

事故やけがはやはり自分自身の不注意から起こるのが一番だと思います。心に余裕を持ち慌てずゆっくりと注意すれば未然に防げるのでは！

一人一人が気を付けていれば事故やけがは防げると思います。

精神的に落ち込んでいるとき、身体が疲れていて気持ちが緩みがちなときに、事故やけががおこりやすいので、心と時間に余裕を持って、何事にも取り組むように、日頃から気をつけることが良いと思います。

常に気持ちにゆとりを持って譲り合いの精神が必要だと思います。

とにかく気配りだと思います。子どもには子どもに対して、老人には老人に対しての気配り。一言でもいいから挨拶したり、世間話を交わすことだと思います。

子どもをもって、事故やけがをしないように自宅の導線や環境整備を気にかけるようになりました。